

令和6年度

JRC未来応援プロジェクト指定校活動報告集

青少年赤十字(JRC)では、子どもたち一人一人が「人道」「博愛」の心を大切に、人類の幸せや世界のために尽くせるような人間になるための取組として、『健康・安全』『奉仕』『国際理解・親善』の3つを実践目標として掲げ活動しています。

多くの教育現場においても、上記の実践目標と重なる学校経営や教育実践が進められていることと思います。日本赤十字社岐阜県支部におきましては、それらの活動を支援させていただくとともに、子どもたちがJRCで大切にしていることを身に付けることを目的に、研究推進モニター校等の募集を行い、助成をさせていただきました。

この流れを受け継ぎ、令和5年度からは、以下の趣旨を踏まえ「JRC未来応援プロジェクト」事業を立ち上げ、指定校を選定し実践していただきました。

<事業趣旨>

青少年赤十字では、園児・児童・生徒の皆さんが、地域や世界の人びとの平和や福祉に貢献できるよう、日常生活や学校生活での活動をととして、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びとの友好・親善の精神を育成することを目的とした活動を推進しています。

この目的達成のため「JRC未来応援プロジェクト」活動助成金を交付して、子どもたちが**健康・安全、ボランティア、国際理解、人権尊重の精神、SDGs**に関する様々な体験をととして「**気づき・考え・実行する**」姿勢を育む活動を応援し、その輪を広げます。

| | |
|------------------|---------------|
| J R C 未来応援プロジェクト | ① 防災活動 |
| | ② 健康安全に関する活動 |
| | ③ 奉仕や福祉に関する活動 |
| | ④ 国際理解親善活動 |
| | ⑤ SDGsに関する活動 |

今年度のJRC未来応援プロジェクト事業では、35の学校・園を指定し、助成をさせていただきました。各指定校においては、創意・工夫をしながら上記①から⑤について、研究実践を推進していただきました。また、子どもたちが活動する際には「気づき・考え・実行する」という青少年赤十字の態度目標を意識して、人道・博愛の精神を具現化する取組にも努めていただきました。

本報告集では、子どもたちが多くの人と出会い、学び、様々な体験や発見等を通して、豊かな心を育み、たくましく成長していく実践が綴られています。豊かな心とたくましさを身につけた子どもたちが、これからも人道、博愛の精神をもち続け、様々な場で活躍していくことを願っています。

これらの貴重な実践が、多くの学校において「豊かな心を育む教育活動」推進の一助となれば幸いです。本報告集をまとめるにあたり、貴重な実践や成果をご紹介いただいた指定校の校長先生方、園長先生方にお礼を申し上げますとともに、ご多用の中、報告書のご提出にご協力いただきました先生方に心より感謝を申し上げます。

令和7年4月1日

岐阜県青少年赤十字指導者協議会
日本赤十字社岐阜県支部

※学校名をクリックすると、その学校のページにジャンプします。

各学校の最後にあるをクリックすると、このページに戻ります。

| No | 学 校 名 | テ ー マ |
|----|-------------|--|
| 1 | こじか幼稚園 | 「自分の命を守る」 |
| 2 | 岐阜市立加納小学校 | 安心安全なわが町「加納」 ～「加納小学校安全マップ」の作成・検証・修正を通して～ |
| 3 | 岐阜市立藍川中学校 | 地域との連携を重視した防災教育 |
| 4 | 大垣市立上石津学園 | 持続可能なまちづくり 「わたしたちの上石津」「豊かに生きる」「上石津のためにできること～いつも心に上石津～」 |
| 5 | 岐阜県立池田高等学校 | 災害に強い地域社会とは何か、またその為にできることについて考えよう |
| 6 | 長森幼稚園 | 強い心と体を作って正しい暮らしをめざそう |
| 7 | 子苑第一幼稚園 | 『お年寄りの方に喜んでもらおう大作戦』 |
| 8 | 子苑第二幼稚園 | 『じぶんとなかまをたいせつに』 |
| 9 | うぬま第一幼稚園 | ・できることから始めよう(SDGS の取り組み、ペットボトルキャップの回収) ・生き物を大切にすることを養う。 |
| 10 | みたけ幼稚園 | 世界の人びととの友好・親善の精神を育成することにより世界に興味、関心を持つこと。 |
| 11 | 美鳩幼稚園 | 多様な災害を想定した避難訓練を通して、自他の命の大切さを考え安全に行動する力を養う。そのための知識や最善の行動を、体験を通して身につける |
| 12 | 各務原市立稲羽東小学校 | めざせ！歯みがき名人！ |
| 13 | 各務原市立中央小学校 | 未来の地球を守るために、私たちができること |
| 14 | 山県市立桜尾小学校 | 自分の命は自分で守る 自分の健康は自分でつくる |
| 15 | 瑞穂市立穂積小学校 | 穂積が好きプロジェクト |
| 16 | 瑞穂市立西小学校 | 体験を通して、地震や水害から自分・家族・地域の人たちの命を守る方法を考えよう。 |
| 17 | 岐南町立北小学校 | 自分のいのちは自分でまもる |
| 18 | 海津市立海津小学校 | 「人とつながり、自ら考え行動する力を身に付けた児童の育成」 |
| 19 | 郡上市立相生小学校 | 【健康・安全】身の回りにある危険に気付き、自ら考え判断し、命を守る行動をとる子を育てる。 【福祉(奉仕)】福祉に関わる体験活動を通して、相手の立場や気持ちに気付き、自分にできることを考え行動する子を育てる。 |
| 20 | 郡上市立牛道小学校 | 家庭(牛道小PTA、牛道っ子応援クラブ)・地域と連携し、親子の絆・地域との絆を深める |
| 21 | 郡上市立白鳥小学校 | 運動に関連する知識や文化に触れ、進んで楽しく運動することを通して、体力や運動への考え方を広め深める |
| 22 | 郡上市立明宝小学校 | 自分たちができる持続可能な取組を考える。進んで運動に取り組み、運動の楽しさを実感するとともに体力向上の必要性について考える。 |
| 23 | 七宗町立上麻生小学校 | 「命と平和・友情」の大切さについて主体的に考える子の育成 ～自分の命、仲間の命、まわりの人の命を大切に、進んでかわり、感謝の心をもつ上麻生っ子を目指して～ |
| 24 | 下呂市立竹原小学校 | 「知ろう！」「考えよう！」「やってみよう！」 ふるさと竹原 |
| 25 | 下呂市立馬瀬小学校 | 馬瀬の魅力再発見！ ふるさと大使を目指して |
| 26 | 岐阜市立岐阜清流中学校 | 岐阜の清流「長良川」と共に生きる |
| 27 | 岐阜市立梅林中学校 | 清流長良川流域の暮らしを守る岐阜の人々の思いに触れ、つながり生きる喜びを感じる体験活動 |
| 28 | 山県市立高富中学校 | ふるさと高富を知り、考え、守ろう、私たちの命 |
| 29 | 山県市立伊自良中学校 | 地域に伝わる「柿渋染め」の体験を通して、講師の生き方・考え方に触れ、地域や誰かのために自分たちができることを考えよう。 |
| 30 | 大垣市立江並中学校 | 江並中人権宣言を具現し、誰もが安心・安全に生活できる江並中 |
| 31 | 揖斐川町立谷汲中学校 | お互いを大切にし、誰もが安心してくらせる谷汲 |
| 32 | 郡上市立高鷲中学校 | 地域が誇る高鷲中生 ～高鷲を考え、高鷲で動く～ |
| 33 | 郡上市立郡南中学校 | 持続可能な社会の創り手の育成 —SDGs×清流長良川 総合的な学習の時間を中核に置いた教育課程の創造— |
| 34 | 恵那市立恵那西中学校 | 地域住民の一人として主体的に行動できる力の育成 |
| 35 | 羽島市立桑原学園 | 学校・家庭・地域の三者で学び合い、気付き、考え、実践する防災・減災学習 |

令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|----------------------------|
| 学 校 名 | 学校法人 平島学園 こじか幼稚園（園長 井上 博詞） |
| 主な実践内容 （複数可） | ① 防災活動 ② 健康安全に関する活動 |
| 教育課程上の位置付け | 保育の時間（健康） |

1 活動テーマ

「自分の命を守る」

能登半島地震についての報道等を通して、保護者はもとより園児たちも地震等に対する関心・不安が高まってきている。改めて地震・火災等の災害、連れ去り等の犯罪、交通事故・水の事故等の危険性に気づき、身を守る方法を考え、自分の命を守る行動が実行できるようにする。

2 主な活動内容

- ・キックオフの会（園児全体に対して命の大切さについて話をする）
- ・避難訓練① 交通教室（交通ルールを理解し、安全に道路を歩く方法を知る）
- ・避難訓練② 水泳教室（プール・川・海等の危険を理解し、安全に水遊びをする）
- ・避難訓練③ 連れ去り防止教室（不審者に声をかけられた際の対応等を理解する）
- ・避難訓練④ 地震・火災を想定した避難訓練
- ・避難訓練⑤ 不審者対応訓練（園内に不審者が侵入したときの対応を理解する）
- ・避難訓練⑥ 保護者への引き渡し訓練（緊急時に一斉に保護者へ引き渡す際の訓練）
- ・避難訓練⑦ 1年間の様々な体験を振り返り、まとめ



キックオフの会



交通教室



水泳教室



連れ去り防止教室



避難訓練

3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | <p>健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊びの中で十分に体を動かす力 ・様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む力 ・自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う力 ・危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する力 |
| 今 後 の 方 向 | <p>様々な状況を想定した避難訓練等を継続して実施することで子どもたちが自らの命を守ることの大切さに対する理解を深めていく。</p> <p>近年、夏場の熱中症に対する危険性が高まっている中、本年度は助成金を活用して TENT を購入することができた。暑さ対策をしながらも子どもたちが安心して戸外で活動する機会を増やしていく。</p> <p>アレルギー等への理解を含む食育についても継続して取り組む。</p> |

令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|-----------------------|
| 学 校 名 | 岐阜市立 加納小学校 （校長 岩佐 優 ） |
| 主な実践内容 （複数可） | ②健康安全に関する活動 |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間 学級活動の時間 |

1 活動テーマ

安心安全なわが町「加納」～「加納小学校安全マップ」の作成・検証・修正を通して～

2 主な活動内容

| 月 | 主 な 活 動 内 容 等 |
|-----|---|
| 5 月 | キックオフの会（全校放送で本校が JRC に加盟していることや赤十字について学ぶ。） |
| 6 月 | 学校運営協議会の委員の方々と校区の情報を共有し、危険個所の確認を行う。（第1回） |
| 7 月 | 夏休み前に「加納小学校安全マップ」を児童に配付し、夏休み中の通学路確認の動機付けを行う。 |
| 8 月 | 「加納小学校安全マップ」を羅針盤として、実際に通学路を歩いて危険個所の確認を行う。 |
| 9 月 | 学級でタブレットを使って自分が見つけた危険個所の交流を行い、「加納小学校安全マップ」の修正を行う。 |
| 10月 | 土曜授業の際に、保護者と児童が共に下校をし（親子下校）、通学路の安全確認を行う。 |
| 11月 | 親子下校の際に気付いた点を「加納小学校安全マップ」に反映し、修正を行う。 |
| 12月 | 冬休み前に「加納小学校安全マップ」を児童に配付し、夏休み中の通学路確認の動機付けを行う。 |
| 1 月 | 学校運営協議会の委員の方々と校区内の危険個所を再度確認する。（第2回） 業者に「加納小学校安全マップ」拡大版の作成を依頼し、校内及び公民館に掲示をする。 |
| 2 月 | 修正した「加納小学校安全マップ」を完成する。 |

3 事業の成果等

| | |
|-----------|--|
| 子供たちに付いた力 | 交通安全に対する意識、自分の身を自分で守ることの大切さ、地域への愛着について、高めることができた。 |
| 今後の方向 | 常に変化する地域の交通状況や町の様子に、意識を向け、安全に対する意識を高めることができるようにするとともに、ふるさとの魅力にも気付き、さらに愛着と誇りをもつことができるように指導する。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-------------|----------------------|
| 学 校 名 | 岐阜市立藍川中学校 (校長 後藤 善彦) |
| 主な実践内容(複数可) | ① 防災活動 |
| 教育課程上の位置付け | 学校行事・総合的な学習の時間 |

1 活動テーマ

- ・地域との連携を重視した防災教育

2 主な活動内容

- ・命を守る訓練 (4月・9月・1月の年間3回実施)
- ・地域の方とともに学ぶDIG 訓練 (10月実施)

3 事業の成果等

【資料1】は、1月に実施した「命を守る訓練」についての職員会資料である。

令和6年度 第3回「命を守る訓練」資料

① 第3回「命を守る訓練」の概要

第3回「命を守る訓練」も「藍川中として意味のある訓練」にすることを目指し、藍川中の地理的条件を踏まえた、よりリアルな非常事態を想定して考えた。

右は昭和35年(65年前)の伊勢湾台風の大雨により崩壊した藍川橋である。下は、その時の堤防の決壊により浸水した芥見町屋の様子である。



芥見の芥には「ごみ、くず。」という意味があるが、これは、武芸川、津保川、長良川が合流するこの地域は、大雨が降ると、その川に流れる芥(くず)が見える、古来から洪水が起きて、芥(ごみ)であふれることが、芥見の地名の由来だと聞いたことがある。常に洪水と戦ってきた、共に生活してきた地域である。芥見大退の堤防は伊勢湾台風以降、かなり高く丈夫なものにしているが、いつ決壊してもおかしくない。芥見大退の大退という地名もそうであろう。そこで、今回の命を守る訓練では、芥見大退の長良川の堤防が決壊したという想定での実施を考えた。その場合は、「垂直避難」である。川に近い芥見小学校では、1階は完全に浸水し、3階まで水が来たとのこと。藍川中学校では、とにかく上へ逃げて当面の命を守ることを考えて、4階への垂直避難を実施したい。

【資料1:1月に実施した「命を守る訓練」職員会資料】

1月の「命を守る訓練」では、洪水が起きたことを想定し、上記のような願いをもって、4階への垂直避難訓練を行った。

4階への垂直避難を行う際、元々4階で生活している1年生は、【図1】のように教室での待機となる。2階で生活している3年生が4階の廊下に避難をするため、雰囲気を感じることはできるが、どうしても、「静かにする」ということのみに意識がいくことを危惧した。



【図1:避難経路】

そこで私たちは、本事業の助成金で購入したアクションカメラを、【写真1】のように、避難する生徒の胸部にハーネスを用いて固定し、上級生がどのような経路を辿って避難しているのかを動画撮影し、教室内に待機している1年生に見せた。アクションカメラで撮影した様子の一部が、【写真2】である。



【写真1:固定したアクションカメラ】 【写真2:アクションカメラが捉えた上級生の視線の映像】

以下は、この命を守る訓練を終えた1年生の生徒の感想である。

| | | | |
|---|---|---|----|
| 1 | 年 | 組 | 名前 |
| <p>本日の命を守る訓練の感想を以下の3つの視点で、書きやすいものでかまいませんので、書いてみてください。</p> <p>視点① 「起きた災害の種類によって、避難場所が変わるということ」（地震・火事等は、運動場等に避難、雨天時は体育館、本日の訓練では、垂直避難）ということを実施しました。今日学んだことを書いてみてください。</p> <p>視点② 今日は「学校で災害にあった場合の避難」を確認しましたが、もし、家にいる時間であれば、あなたは家族とどこに避難し、待ち合わせをすると決めていますか？今日戻ったら、家族とどのような話をしたいと思っていますか？</p> <p>視点③ 本日は、本年度初めての「垂直避難」を行いました。どんなことを考えて避難しましたか？</p> | | | |
| <p>感想</p> <p>視点① 学校にいる時はみんながいるし指示が出されるから、家よりは落ち着いて判断して行動できると思うけど、もし家にいる時に起きたら、、、と考えたら地震の時にどこに避難するかは分かるけど、洪水などの時などの場合によって異なる時はどこに避難するかは詳しく分からないので、家族で確認しておく事が大切だと思いました。</p> <p>視点② 話したことはあるけど、場合によっては話し合っていないと分からないので、いざとなった時にしっかり避難出来るように話したいです。</p> <p>視点③ 私たちは1年生で、4階にいるから洪水の時は特に移動することはないかもしれないけど、もうすぐ2年生になるから、その時に素早く行動できるようにと考えながら取り組みました。今回は静かに待つことで2、3年生に指示が通るように静かに待機する事を心がけて取り組みました。</p> <p>また、先生に、3年生の先輩方の避難の様子を見させて頂きました。やはり先輩方は素早く静かに避難されていました。また、私たちは暖かい教室の中で、よく通る声で担任の先生方の指示が聞こえますが、先輩方はとても冷たい廊下にお尻を下ろして、すごく静かにしていないと指示が聞こえない状況であったと映像を見てわかりました。</p> <p>本当の非常時はこうやって厳しい環境の中でもパニックにならずに避難することが大切だと思いました。</p> | | | |

アクションカメラの映像は、本来1年生の生徒が体験しうるものではない3年生の避難の様子を追体験することに一役買っていることが赤字の部分からわかる。

今後の方向

「アクションカメラ」によって、他学年の避難の様子や、避難した場所の様子を知ることによって役立つことがわかる。

今回は、「命を守る訓練」での使用をしたが、「地域の方とともに学ぶDIG訓練」での活用も考えられる。例えば、通学路を通して帰宅する生徒の様子をタイムラプスで撮影する。撮影した動画を用いて、「日常の生活をする中で通行が考えられる道路」において、被災した場合、どの場所が危険で、どのような場所に避難すると良いかを検討する活動を仕組むことができる。

より広範囲での対応策を考える場の設定をし、活用していきたい。



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|---|
| 学 校 名 | 大垣市立上石津学園 (校長 神谷 憲一) |
| 主な実践内容 (複数可) | ⑤SDGs に関する活動 ・ 持続可能なまちづくり 「わたしたちの上石津」「豊かに生きる」「上石津のためにできること」 ・ 食の安全 |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間、ふるさと大垣科 |

1 活動テーマ

- 持続可能なまちづくり「わたしたちの上石津」「豊かに生きる」「上石津のためにできること～いつも心に上石津～」
- 食の安全「安全で楽しい食生活にするためには、何が大切なのだろうか」

2 主な活動内容

【3、4年生】「持続可能なまちづくり『わたしたちの上石津』」

- ・ 上石津4地区を探索し、上石津地区の特色である農業、林業について、地域の方から話を聞いたり、体験したりした。その後、上石津で農業をするよさや、苦勞、上石津で活躍する人々について探究的に学んでいった。
- ・ 4年生では、人口が減少している上石津で店舗経営をする方や、林業に携わる方の講話を聞き、お聞きしたことを整理し、発表した。
- ・ 3年生では、上石津で米作りをする方に田植えや稲刈りを体験させていただく中で、働く人の思いを聞き、作業の大変さを知ることができた。米作りについて知ったことや、上石津での米作りのよさや課題などを整理し、発表した。



貸切バスを使って、上石津地区を探索し、地域の特色を学んだ。

【7年生】「持続可能なまちづくり『豊かに生きる』」

- ・ 琵琶湖研修を通して、環境汚染に対しての市民による復興運動を知ることができた。また、地元企業の見学や講話により、企業が環境保全に対して努力していることを知り、整理・分析する中で、自分たちにできることをまとめ、掲示物をつくったり、保護者や企業の方と座談会をしたりして、家庭や地域に向けて働きかけをしていった。



学んだことを掲示物にまとめて掲示した。

【8年生】「持続可能なまちづくり『上石津のためにできること～いつも心に上石津～』」

- ・他のまち（福井県若桜町神子）を知ることで、上石津の魅力や地域のためにできることの大切さを知った。また、地元企業である J-MAX 等地域の産業に触れ、企業努力を調査する中で、自分たちは何ができるのかを考え、整理、まとめたことをパネルにして発表した。



地元企業の方を招き、
企業努力について話を聞いた。

【5年生】「食の安全『安全で楽しい食生活にするためには、何が大切なのだろうか』」

- ・公設地方卸売市場、和食店の見学、食品製造企業や大型商業施設において講話を聞き、食にかかわる知識を深めた。この中で、安全で楽しい食生活にするために自分たちができることを考え、大型商業施設での啓発活動を行ったり、1年間の学びを整理してまとめ、保護者や家庭に伝達したりした。



大型商業施設での調査活動、
啓発活動を行った。



学んだことをパネルにまとめ、パネル展や成果発表会を行った。



3 事業の成果等

| | |
|-----------|--|
| 子供たちに付いた力 | 探究的な学びを身に付け、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力 |
| 今後の方向 | 地域人材や地域素材の活用、企業や関係機関と連携し、児童生徒が自ら考え、活動し続ける学習の設定をしていく。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|---|
| 学 校 名 | 岐阜県立池田高等学校 (校長 鈴木 彰) |
| 主な実践内容 (複数可) | ① 防災活動 ② 奉仕や福祉に関する活動 ③ SDG s に関する活動(目標 No. 11 住み続けられるまちづくりを) |
| 教育課程上の位置付け | 学校行事・総合的な探究の時間 |

1 活動テーマ

災害に強い地域社会とは何か、またその為にできることについて考えよう。

2 主な活動内容

- ・ キックオフの会として、新入生向け学年集会で本校が J R C に加盟していることや、赤十字等について学んだ。また、協働することの大切さをミニゲームを通して学んだ。
- ・ DIG 訓練 (DIG シートの作成) により、自宅および校舎内の危険の把握とその対策について学んだ。
- ・ サンビレッジ国際医療福祉専門学校講師の講話にて、各自の認知特性に合わせた生活について学んだ。
- ・ SDGs の達成を目指した探究活動を行い、年間を通して SDGs の「目標 No. 11 住み続けられるまちづくり」を含めた 17 の目標の達成について考えた。
- ・ 炊き出し体験 (ハイゼックスを用いた炊飯と調理活動) をとおして、避難所運営について学ぶとともに人々と協働する姿勢を学んだ。
- ・ 上記炊き出し体験時に、J R C や池田町総務課の災害担当の方を招聘し、屋外での非常用電源装置による投光や、非常用トイレの設営体験を行った。
- ・ 防災講話として、岐阜大学地域減災研究センター村岡治道准教授をお招きし、高校生が災害時に果たすべき役割について講演をしていただいた。
- ・ 飛散防止フィルムなど防災グッズを実際に使って、災害前への備えについて体験的に学んだ。
- ・ SDGs の達成を目指した探究活動の成果で、外部コンテスト (SDGs Quest 未来甲子園) に応募する。
- ・ J R C 献血担当の方の講演会を実施した。献血の大切さについて学び、また本校で献血を実施する予定である。(R 7. 2)

3 事業の成果等

| | |
|-----------|--|
| 子供たちに付いた力 | <p>本校は避難所としての役割が期待されており、避難所設営において生徒が、地域防災のリーダーとして果たすべき役割は大きい。今回の活動を通じて、周りの人と協力して作業をしたり互いに声を掛け合うことの大切さを実感した。地域住民と協働し、他者の安全のために主体的に行動する姿勢と同時に、共同的な体験を通して他者に寄り添い理解を深めるためにコミュニケーションを図ることができ、集団生活への適応力も高まった。</p> <p>また、実際に DIG 訓練や避難所設営体験、および飛散防止フィルムの利用などを通して、災害を他人事ではなく身近な問題として捉え、万が一の際には率先して活躍できる資質を育成できた。</p> |
| 今後の方向 | <p>非常変災時における避難所運営の在り方についての議論が高まる中で、地域防災の担い手として高校生への期待は大きくなっている。新入生には今回と同じく野外での炊き出し・避難所設営訓練を新入生行事として持続的に行っていく。さらに防災に関係する学校設定科目を選択した生徒を対象に、非常時にかまどになる「かまどベンチ」を地元企業や地域の工業高校と連携して設営するなど、さらに地域を巻き込みその防災の中心的な役割を果たせるように活動していきたい。</p> |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|---|
| 学 校 名 | 学校法人 上楽学園 長森幼稚園 （園長 元田 秀人） |
| 主な実践内容 （複数可） | 年間を通して健康安全（健康な体作り・歯科衛生・命を大切にする活動など）の活動を地域と連携して取り組んだ |
| 教育課程上の位置付け | 健康・人間関係の領域 |

1 活動テーマ

強い心と体を作って正しい暮らしをめざそう

2 主な活動内容

(1)園庭でののびのび遊び

園児たちは、登園してから午前保育が始まる1時間余りと帰りの挨拶後の1時間に外遊びやお部屋遊びを行っている。遊具や砂場での遊び、ボールやフラフープなどの用具を使った遊び、草木の中の虫探しなど、少人数で楽しく遊んでいる。また、夏は小プールや園内の川での水遊び、秋は落ち葉やどんぐりを拾っての遊びなど、季節の遊びを楽しんでいる。1年を通して、元気に遊び、健康な体と強い心を育む園児の姿が見られた。



▲夏の水遊び

(2)歯科の健康づくり

今年度で4年目になる県立衛生専門学校の歯科衛生学科の学生の臨地実習である。のべ21名の学生が3日間の実習を行った。食事の仕方や歯の状態を観察するだけでなく、遊びや保育など積極的に園児と関わり、自作の紙芝居を通して、歯磨きの大切さを教えてもらった。園児たちは「食べた後は家で歯磨きしてるよ」「仕上げはお母さんにしてもらおうよ」「歯ブラシは小さく動かすんだね」などと興味深く反応し、歯磨きへの意欲を高めていた。後日、保護者にも歯の健康づくりについてのお話をする場を設けた。



▲実習生の紙芝居

(3)地域との連携 いもほり活動

園の前にある畑での芋ほり体験が2年目を迎えた。5月に苗を植え、茎の部分を土に斜めにさしている様子や葉が茂って土が見えなくなっていく生長の様子を園児たちは窓から毎日眺めていた。

創作の時間に葉や芋を紙に書いたり立体的に作ったりして収穫までに活動を通して楽しみにしていた。いよいよ11月上旬の収穫の日、一人3つの茎を割り当てとして芋ほり活動を行った。

袋いっぱいに入った大きな芋を抱きかかえ、収穫を喜び合った。「ありがとうの会」では農家のおじさんに、感謝の気持ちを伝えることができた。



▲秋のお芋の収穫

3 事業の成果等

| | |
|-----------|--|
| 子供たちに付いた力 | <ul style="list-style-type: none"> ・元氣いっぱい遊びに夢中になる力がついた。 ・歯磨きの大切さが分かり、毎日の歯磨きへの意欲を高めた。 ・お世話になった地域の人たちに感謝の心をもつことができた。 |
| 今後の方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・大人の人たちに教えてもらい、健康で安全な生活をしようとする意欲を高める。 ・県立衛生専門学校の臨地実習について継続を図る。 ・近隣の幼稚園、小学校との交流や防災連携を進める。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|--|
| 学 校 名 | 学校法人那加学園 子苑第一幼稚園 (園長 加藤 勝祥) |
| 主な実践内容 (複数可) | 地域の福祉施設との交流 |
| 教育課程上の位置付け | ・身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」 ・人とかかわりに関する領域「人間関係」 の各領域 |

1 活動テーマ

『お年寄りの方に喜んでもらおう大作戦』

幼稚園の近隣にある老人養護施設の方との交流を通して、お年寄りとの接し方を学んだり様々な関わりを通して思いやりの心を育てたりしていきたい。また、老人の方に元気を与えたい。

2 主な活動内容

【七夕交流会】

近隣の3施設への訪問

- ・1回目…七夕訪問、笹飾りのプレゼントをし、歌・肩たたきや手遊びなどをして交流する。
- ・2回目…クリスマス訪問、ちびっこサンタのコスチュームで訪問、歌やゲームの交流←中止
- ・3回目…まとめの訪問、おたよりを持って郵便屋さんが配達する。歌を歌って交流する。

【おたより配達】

郵便屋さんごっこという保育活動の中で、お年寄りの方にメッセージを書いて訪問で渡す。中止の場合は代表が配達する。

3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | 核家族が多い中でお年寄りと接する機会の少ない子どもが多い、そうした子どもたちにお年寄りと接するときに大切なことは何かを教えることができた。また、お年寄りとのコミュニケーションをとり方、声のかけ方、返事の仕方なども自然に学ぶことができた。 |
| 今後の方向 | <p>年長の3クラスが3つの施設に3回訪問訪問(すべてが1回こずつ訪問出来るように)と計画したが、インフルエンザの流行もあって2回目(クリスマス訪問)は中止になった。3回目の最終の訪問3月も現在のところ未定となっている。来年度も同じように老人介護施設との交流事業を行なっていきたいと考えているが、コロナが5類となって収束したかに見えたが感染症はお年寄りへの健康被害が重篤になる恐れもあって、相手方も慎重になっている。来年度のキックオフまでに、交流の在り方、方法も考えていきたい。</p> <p>・ズーム形式での訪問事業の模索をしていく</p> <p>施設にスクリーンとプロジェクターを持っていき園にも同様にセットしたスクリーンに互いを映しあって交流することも回数に含め、直接交流の機会も大切にするが複線化していく。</p> <p>そのためにも来年度もプロジェクトを継続し、援助をいただきながらより充実させていきたい。</p> <p>・招待席の準備</p> <p>元気な方(階段の自立昇降可能な方)には園の行事にご招待するという取り組みも考えたい。</p> |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|------------|---|
| 学 校 名 | 学校法人那加学園 子苑第二幼稚園（園長 石田 靖彦） |
| 主な実践内容 | ①防災教育 ⑤SDGsに関する活動 |
| 教育課程上の位置付け | 【防災教育】 1 心身の健康に関する領域「健康」 2 身近な環境との関わりに関する領域「環境」 【SDGs】 3 身近な環境との関わりに関する領域「環境」 |

1 活動テーマ

『じぶんとなかまをたいせつに』

園の教育目標である『じぶんとなかまをたいせつに』の具現化をめざし、

⇒ 【じぶん】自分の命は自分で守る防災教育の取り組み

⇒ 【なかま】他者への思いやりの心を育てる SDGs の取り組み

2 主な活動内容

（1）自分の命は自分で守る防災教育の取り組み

清流の国ぎふ防災・減災センター等で指導していらっしゃる村岡治道氏の指導の下、毎月の命を守る訓練では、時間帯や場所等のシチュエーションを変えながら、主に地震発生時に自分の身を守れるように訓練を実施してきた。



（2）命の不思議さや尊さに気づき、身近な生き物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもちいて関わるようになるように、様々な生き物とのふれあい活動を行ってきた。



（3）廃材あそびを通して、幼稚園児なりに物の大切さや再利用について考え、身近な環境に目を向けるような廃材を使った工作あそびを行った。また、廃材あそび参観を実施し、保護者にも参加していただき、理解を深めた。



3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | <p>【防災】一人一人が『自分の命は⇒自分で守る』という意識がもてるようになってきた。</p> <p>【SDGs】生き物や他者に対して思いやりの心をもって接することができるようになってきた。</p> <p>物の大切さや再利用に対する意識がもてるようになってきた。</p> |
| 今後の方向 | 今年度取り組んだ防災と SDGs の活動を継続・発展させて、意識や実践力を高めていきたい。 |

令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|---|
| 学 校 名 | 学校法人 うぬま第一幼稚園 (園長 杉山 一夫) |
| 主な実践内容 (複数可) | <ul style="list-style-type: none"> ・ちきゅうフレンズの教材を利用し SDGS について知ったり、取り組み方について考えたりする。 ・世界わたちの教材で、他の国やその人々のことを国際交流で関わりを持つ。 ・ペットボトルキャップを集め、ワクチン接種の支援を行う。 ・犬猫譲渡会を保護者会のバサーと協力して行う。 |
| 教育課程上の位置付け | SDGs の取り組み |

1 活動テーマ

- ・できることから始めよう(SDGS の取り組み、ペットボトルキャップの回収)
- ・生き物を大切にすることを学ぶ。

2 主な活動内容

ちきゅうフレンズの SDGs の教材を使用し、「オーストラリアと水」「ケニアと生き物」「シンガポールと人」の3つのテーマに取り組んだ。

・「オーストラリアと水」では子どもたちは、水や電気などの資源は限られていることを知り、毎日の生活の中で、手洗い等で、水の出しっぱなしや電気のつけっぱなしなど、身近なところから意識し、子どもたち自ら、家庭でも行うようになってきている。また、ウミガメが海のごみを食べてしまうなど、私たちが出すゴミについても学び、ごみはきちんと決まったところに捨てることを学んだ。

・「ケニアと生き物」では、人と動物が共存して生活する環境に、人が入っていくことで、動物たちが生活する豊かな自然環境が壊されていることを知り、人間と動物が仲良く暮らすためにはどのようにしたらいいのかを話し合った。動物たちの気持ちを考えられ優しい気持ちが持てるようになった。

・「シンガポールと人」では様々な宗教や多国籍の人々がいることを学びました。文化は違うことで、人々の暮らしの問題点について考えることができました。

明るい未来に向け、子どもたちと「今できること」を今後も取り組んでいきたいと思えます。

・今年、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランド、インドのお友だちと国際交流を行い、その国の幼児たちと関わり、楽器や旗などを知ったり、言葉の違いを感じながら手遊びを一緒に楽しんだりした。子どもたちは、同じ手遊びでも言葉が違うことに気づいていた。

・犬猫譲渡会の代表の方のお話を聞き、ペットを最後までお世話をし、捨てないことなど生き物の命の大切さを聞き、「かわいそう」「最後まで、お世話をする」など子どもたちなりに感じるようになった。

・ペットボトルキャップを集め、ワクチン接種の支援を行った。助かる人がいるんだと知り、子どもたちも親しみのあるペットボトルのキャップだったため、意欲的に園へもってきてくれるようになった。

3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | SDGsを通して、身近な環境に目を向け感じる。 |
| 今後の方向 | 継続的に環境や世界にも目を向け、今できることを子どもたちと考えていき、取り組んでいく。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|--------------------------------|
| 学 校 名 | 学校法人 杉山第三学園 みたけ幼稚園（ 園長 杉山 一夫 ） |
| 主な実践内容 （複数可） | ④ 国際理解親善活動 ・ ⑤SDGs に関する活動 |
| 教育課程上の位置付け | 年間通じて保育の活動時間 |

1 活動テーマ

(1)国際交流プログラム

こどもたちの国際理解を育むための、海外の幼稚園・保育園とのオンラインを活用した交流プログラムです。ライブだけでなく、相手の国のことを楽しみながら学びます。

クイズについて自分で調べたり、相手園への質問を考えたりと、能動的に考え、実行しながらこどもたちの関心や主体性、探求心を育みます。

(2)SDGs プログラム「ちきゅうフレンズ」

動画と振り返り教材、園でのアクティビティをミックスした、幼稚園保育園専用の SDGs プログラムです。世界3カ国を舞台にしてデジタル絵本教材と SDGs をまなぶ教材・ワークシートを使いながら、世界の SDGs に関するこどもたちの関心を育みます。また、先生方がうまく進められるようオンラインでの研修も実施します。これらの教材をきっかけにしながら、園での SDGs の活動とも関連させることにより、関心を持っただけで終わらず、実行するところまで学びます。

(2)の SDGs プログラムを計画し活用しつつ、集大成としての(1) 国際交流プログラムを行うことで、年間を通じてこどもたちの国際理解というテーマに対して「気づき・考え・実行する」プログラムとして、生きる力を育みたく考えています。

2 主な活動内容

世界の3ヶ国の文化・SDGs学習・アクティビティを先生と一緒に学びました。

その集大成として、インドの子どもたちとネット回線をつなぎ、交流をしました。

3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | 広い世界に目を向け、世界にはたくさんの人々が住み、その国にあった生活の仕方があることを知り、興味関心を持つ。 |
| 今後の方向 | 世界のお友達と交流することで、たくさんのお友達と仲良くなれる方法を知りその国がどんな国なのかを知るきっかけとなることを望んでいる。 |

昨年度から始まり、今年度で2回目の取り組みの中で、3つの国のことを学びながらSDGsに取り組みました。1つ目の「オーストラリアのお友達と遊ぼう」では、まずオーストラリアという国について紹介があり、地図を見たり大きな建物のオペラハウスや橋、グレートバリアリーフなどを紹介してもらったりしました。

2つ目の「シンガポールのお友達と遊ぼう」では、様々な言葉や宗教を持つ人々がいることを学びながら、人々が共に暮らす雰囲気、多国籍な食事、エキサイティングなエンターテイメント等を学びました。そのような中で、なぜ街にゴミがないのか、高層ビルの街並みに並ぶ食べ物はどこから来ているのかなど、アジア随一の先進国シンガポールを舞台に、華やかな「人の暮らし」の裏側に潜む問題を考えました。また、画面を通しての国際交流をすることで、視覚を通し実体験ができ、差別のない豊かな友達関係をきづくことができました。

3つ目の「インドのお友達とパーティー」では、みんなであいさつをしたり、ゲームをします。また「四角いもの」を持って来て、得点を競い合うスカイベンチャーハントです。またメインキャラクターの「マグー」から「好きなキャラクターはなあに？」と質問があり、それに答えたり、手遊びをしたりして、国際交流を楽しみます。



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|----------------------------|
| 学 校 名 | 学校法人 飛騨学園 美鳩幼稚園 (園長 岩田 昌弘) |
| 主な実践内容 (複数可) | ① 防災活動 ② 健康安全に関する活動 |
| 教育課程上の位置付け | 保育時間中、業間や昼休み中 |

1 活動テーマ

多様な災害を想定した避難訓練を通して、自他の命の大切さを考え安全に行動する力を養う。そのための知識や最善の行動を、体験を通して身につける

2 主な活動内容

- ・4月24日(水) シェイクアウト訓練と避難訓練(地震による火災からの避難)
- ・5月21日(火) キックオフの会(JRC 加盟の意味と赤十字の理解)、シェイクアウト訓練、避難訓練
- ・6月26日(水) 火事からの避難訓練(高山消防署の協力)、職員による初期消火訓練
- ・7月10日(水) プールでの安全な遊び方、避難訓練(業間時の地震発生対応)
- ・9月2日(月) シェイクアウト訓練と避難訓練
- ・10月23日(水)身近な生活での安全意識向上(雨降りの側溝、横断歩道での安全確認)と対応訓練
- ・11月27日(水)身近な生活での安全意識向上(連れ去り防止、不審者対応)と対応訓練
- ・12月16日(月)降雪時の安全意識向上(冬の安全な遊び方、降雪時の危険箇所)と対応訓練
- ・1月27日(月) 降雪・凍結時の安全意識向上(凍結道路の危険性と歩行)と歩行避難訓練<予定>
- ・2月25日(火) シェイクアウト訓練と避難訓練と年間の活動のまとめ(スライド写真)<予定>
- ・3月11日(火) 東日本大震災と今後起きうる災害の理解(南海トラフ地震)<予定>

3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | あらかじめ予告した訓練ではなく、園での日常生活場面での避難訓練を行ったことで、臨機応変に対応することの大切さを実感し、考えて行動しようとするようになった。 |
| 今後の方向 | 地震後の火災に限らず、日常に潜む「危険」に柔軟に対応できる力をつける。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|---|
| 学 校 名 | 各務原市立稲羽東小学校（校長、山田 宏子） |
| 主な実践内容 （複数可） | ②健康安全に関する活動 歯の健康について 発達段階に合わせた歯と健康についての知識を学び、染め出しによる歯のみがき方指導 食後の歯みがき習慣づくりの取組 |
| 教育課程上の位置付け | 特別活動、総合的な学習の時間 |

1 活動テーマ めざせ！歯みがき名人！

2 主な活動内容

- 5月 キックオフの会
- 6月 第1回 歯みがき教室 4・5・6年生
歯周病について学び、歯肉炎を予防する歯みがきの仕方を学ぶ。染め出しによる自分にあった歯みがきの仕方を学んだ。
- 7月 第1回 歯みがき教室 1・2・3年
発達段階に合ったみがき方を学び、染め出しにより自分のみがき残しの場所に気づき、歯みがき名人をめざした。
- 8月 各家庭に染め出しとカレンダーを配布し、みがき残しの場所を親子で確認し、歯みがき習慣作りを推進した。
- 9月 歯に良い食べ物講座 低学年 栄養教諭と協力し、歯に良い食べ物について指導した。
- 10月 歯に良い食べ物講座 高学年 栄養教諭と協力し、歯に良い食べ物について指導し、自分で選択できる力をつけさせた。
- 11月 第2回 歯みがき教室 高学年 夏休みの染め出し結果による自分のウィークポイントを見つけ、日常の歯みがきに生かす。
- 12月 第2回 歯みがき教室 低学年 夏休みの染め出し結果による自分のウィークポイントを見つけ、日常の歯みがきに生かす。
- 1～3月 「歯の大切さ」を家庭に伝えるカード新聞づくり、歯みがき標語づくり

3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | 歯の大切さがわかり、食後の歯みがきを積極的にやろうとする姿勢が育ってきた。 |
| 今後の方向 | 昼の歯みがき習慣を継続させ、80歳になっても20本以上の歯を残せるように家庭にも広めていきたい。 みがき残している場所をチェックすることで、自分の歯みがきの上達をさせ「歯みがき名人」を目指す。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|--|
| 学 校 名 | 各務原市立中央小学校 (校長 吉田 英太郎) |
| 主な実践内容 (複数可) | ⑤SDGsに関する活動 (目標 No. 3 すべての人に健康と福祉を No.12 つくる責任 つかう責任) |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間、学級活動の時間 |

1 活動テーマ

未来の地球を守るために、私たちができること

2 主な活動内容

(1) オリエンテーション

地球温暖化について、「今、どんなことが地球に起きているのか」を考えた。

(2) 社会見学「高安」へ行こう

リサイクル工場を見学した。また、リサイクルしたものを活用して作られる物を学んだ。

(3) 夏休み自主的活動をしよう

「私のクールチョイス宣言」を行い、夏休みに自宅でできることを考えて取り組んだ。

(4) 地球温暖化について学ぼう

「夏休みの取組から、どんなことが大切なのか」を考え、学校の中でできることを係活動の取組などに生かした。

(5) 「北清掃センター」見学へ行こう

ごみの量や3R (リデュース、リユース、リサイクル) など、ごみ問題について学んだ。

(6) ロケットを打ち上げよう

UEマイスターから各務原市のロケット産業について学んだ。その後、UEマイスター指導のもとロケットを製作し、エンジンを付けて飛ばした。全校児童が打ち上げを見学した。

(6) 食品ロスについて学ぼう

賞味期限や消費期限について学び、食品ロスについて考えた。食品ロスを減らすため、自分ができることを考え、行動することを学んだ。

(7) パーム油について学ぼう

普段疑問をもたずに食しているものが、実は環境に大きく関わっていることを知り、どうしていくとよいのか、地球規模の問題を自分のこととしてとらえた。

(8) まとめ

「未来の地球を守る」ために自分たちにできることをまとめ、SDGs パネルを製作した。

【協力機関】

- ・岐阜県庁 環境生活部 環境生活政策課 岐阜県環境教育推進員
- ・各務原市PTA連合会 夢ロケット基金企画室 UEマイスター

3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | SDGsについての知識やSDGsに関わる見方・考え方が身に付いた。地球環境を守るため、自分たちができることを実践に移すことを期待している。 |
| 今後の方向 | 製作したパネルは4年生廊下に長期間掲示する。今後、下学年が4年生になって同じテーマで学習する際に役立てる。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-------------|-----------------------|
| 学 校 名 | 山県市立 桜尾小学校（校長 奥田宣子） |
| 主な実践内容（複数可） | ① 防災活動 ②健康安全に関する活動 |
| 教育課程上の位置付け | 学級活動の時間 道徳（生命尊重） 保健体育 |

1 活動テーマ

自分の命は自分で守る 自分の健康は自分でつくる

2 主な活動内容

- ① 定期的・継続的に命を守る訓練を実施した。4月の地震による火災発生想定訓練から始まった。揺れが来たらまず頭を守ること、移動時は「おはしも」を意識することを確認した。5月はKYT（危険・予知・トレーニング）を行い、全校児童が縦割り班に分かれて、校内や敷地内に潜む危険性について考えたり、実際に現場へ見に行き状況を確認したりした。5月末には災害用として使える簡易テントを借り、高学年が組み立ての体験をした。その様子を低学年が見守り、組み立て後はみんな仲良くテントに入った。6月は不審者対応の命を守る訓練を行った。無事集合場所への避難が終わり教室へ戻った後に、ある映像を見せた。児童が避難中に、職員が凶器を持った不審者役をさすまたで取り押さえる様子が動画に収められていた。児童は真剣に見て、自分たちのために先生達が守ってくれたという感想がとて多く届いた。9月はシェイクアウト訓練を実施。地震が来た時の初期行動の大切さの映像を見たり、3つの行動を実際にやってみたりした。9月は大雨も多いことから、土砂災害を想定し郊外にある避難場所（公民館）まで避難する命を守る訓練を行った。地域の防災士の方の講話の中に、10才の防災士もいると聞き、どの子も自分の命は自分で守る自覚を高めた。9月末は日本防災士会より講師を招き、桜尾小校区のDIG訓練を実施した。登校班ごとに分かれ、土砂崩れの危険性がある箇所、浸水する恐れがある箇所を色で塗っていった。桜尾校区の土地は避難する場が少ないことが明確になり驚いていた。11月は告知がない訓練を行った。昼休み突然の緊急地震速報がなると、シェイクアウトの3つの動きで反応した。その後は、自分たちで考え、すばやく避難場所に集まることができた。
- ② 歯の学校として学校歯科医と連携を図り全クラス、年2回ずつ歯科指導・ブラッシング指導の機会を位置づけた。学年に応じた課題が設定され、1年生の親子歯みがきに始まり、各歯の役割、歯に良いおやつ・悪いおやつ、脱灰・再石灰化など、歯に関する学びを深めた。6月の参観日には、高学年は保健所の方から食中毒に関わる話を聞き、食中毒の怖さや防ぎ方を学んだ。また、低学年は、岐阜医療科学大学の先生から命の誕生の奇跡の話を聞いた。親子で脈の振動を確かめ合うシーンも見られ、生まれてきた命がとても尊いことを、あらためて親子で確認する貴重な機会となった。3学期には、大震災の被災地へ行かれた講話を聞いた。自然の力のすごさや恐ろしさを知るとともに、命を守るために今の自分ができることについて考える時間となった。

3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | 継続的に命を守る訓練を行い、自分で判断して動くことを推奨してきたことで、「自分の命は自分で守る・自分の健康は自分でつくる」意識を高め、指示がなくとも動く児童が増えた。まず何をして、何をしてはいけないかが判断できるようになってきている。歯を大切にやる意識が大いに高まり、給食後の歯みがきも進んで行っている。命に関わる話を聞くことで、生まれてきたことだけでも十分、自分ってすごいという気持ちを持ち、自分を大切にすることを育むことができた。 |
| 今後の方向 | 命を守るスキルをより高めていくため、命を守る訓練を定期的に位置づけ、訓練内容や質を工夫していく。歯科医、助産師、防災士など専門家の方による講話は説得力があり、込められた思いも強い。自分を大切にし、いかに生きていくかを考えるためにも専門性が高い方の話を直接聴いて考える機会を作っていきたい。 |

令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|----------------------------------|
| 学 校 名 | 瑞穂市立穂積小学校 (校長 郷 通芳) |
| 主な実践内容 (複数可) | ①防災活動 ②健康・安全に関する活動 ⑤SDG s に関する活動 |
| 教育課程上の位置付け | 社会科、総合的な学習の時間、学級活動の時間 |

1 活動テーマ

穂積が好きプロジェクト

2 主な活動内容

| 月 | 主 な 活 動 内 容 等 |
|-----|--|
| 4 月 | |
| 5 月 | 命を守る訓練（地震・火事）【全校】 連れ去り防止教室【1・2年】 |
| 6 月 | 親子登校（親子で登校しながら、校区や通学路の汚れや危険箇所等に気付く。）【全校】 リサイクル活動に参加する。【全校】 歯磨き指導【全校】 高齢者疑似体験【5年】 校区探検【1・2年】 自然災害から暮らしを守る【4年】 |
| 7 月 | 防災学習【6年】 水道施設見学【4年】 大豆博士になろう【3年】 歯磨き大会【5年】 保育所交流【5年】 シェイクアウト訓練【全校】 |
| 8 月 | 家庭で歯磨きカレンダー【全校】 保育体験【教員】 |
| 9 月 | シェイクアウト訓練【全校】 防災出前講座【6年】 |
| 10月 | 授業公開日（地域の方に学校の様子を公開する。） SDG s を考える【4年】 大豆博士になろう【3年】 |
| 11月 | 命を守る訓練（不審者）【全校】 人権教室【3～6年】 防災出前授業【6年】 福祉講座（車椅子体験、視覚障害の方の講話【5年】 シェイクアウト訓練【全校】 外国人共生出前講座【5・6年】 SDG s 出前講座【4年】 認知症講座【6年】 |
| 12月 | キックオフの会（各学級や全校放送で、本校が JRC に加盟していることや、赤十字等について話を聞いて、理解を深める。） 感謝の会（登下校の安全の見守りや校内美化等でお世話になった地域の方に感謝の気持ちを伝え、環境整備や安全への意識を高める。）【全校】 歯磨き3周磨きキャンペーン【全校】 |
| 1 月 | 命を守る訓練（不審者）【全校】 育てた大豆で豆腐作り【3年】 |
| 2 月 | 学習振り返りの会【全校】 シェイクアウト訓練【全校】 |
| 3 月 | |

3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | 自分たちの住んでいる瑞穂市や穂積小校区の特徴に 気づき 、安全で誰もが住みやすくなるための方法を 考え、実践 することを通して郷土愛を育むと共に、社会の担い手としての意識を高めることができた。 |
| 今後の方向 | <p>今年度は、防災活動や福祉、SDG s の学習を外部講師を招いて、実際の活動を体験したり、生の声を聴いたりすることができた。子どもたちが実際に体験することを通して、実感を伴い、もっと知りたいと思うようになった。</p> <p>来年度も継続して、外部講師の活用や体験活動を増やすことで、自分ごととして、地域のことを考え、「穂積が好き」な子どもたちを育ていきたい。また、学習の成果の発信や日常生活における防災やSDG s の取組も進めていきたい。</p> |

5年 視覚障害者の方の講話



3年 醤油（大豆）講座



歯磨き指導



健康委員会による納歯式 資料作りのためのカラーインク



防災学習の調べ学習図書



健康委員会の作成した全校児童用歯磨きカラーシールと歯磨きセット



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|--------------------------|
| 学 校 名 | 瑞穂市立西小学校 (校長：廣瀬 久士) |
| 主な実践内容 (複数可) | ①防災学習 |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間 |

1 活動テーマ

体験を通して、地震や水害から自分・家族・地域の人たちの命を守る方法を考えよう。

2 主な活動内容

- 命を守る訓練（地震、大雨による水害、火事）シェイクアウト訓練
- 防災学習
 - ・水害、地震の仕組み
 - ・「まもるいのち ひろめるぼうさい」の活用
 - ・着衣泳
 - ・岐阜県広域防災センター見学、体験
 - ・避難所模擬体験学習
 - ・校内防災点検
 - ・学びを全校へ発信

3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | <p>・地震について危険箇所などに気付き、避難所生活について学ぶことを通して、自分たちに何ができるかを考え、危険予知や事前対応など身の回りでできることを実践し、災害に備えようとする意識や実践力を養うことができた。</p> <p>・岐阜県広域防災センターを訪問して、地震や消火器使用の体験をすることができた。子どもたちが実際に体験することを通して、自然災害の恐ろしさと対策の必要性を理解することができた。</p> |
| 今後の方向 | 防災学習を来年度も継続して、子どもたちから全校に向けた防災学習の成果の発信や、日常生活における減災の取り組みを進めていく。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|----------------------|
| 学 校 名 | 岐南町立北小学校（校長 臼井 一彦） |
| 主な実践内容 （複数可） | 健康・安全活動に全校で取り組む |
| 教育課程上の位置付け | 特別活動（命を守る訓練等）・教科授業 等 |

1 活動テーマ

自分のいのちは自分でまもる

2 主な活動内容

- （１）災害時を想定した避難訓練を年に３回以上実施する。
 - ・様々な非常災害に対応した「命を守る訓練」を実施した。
地震・火災・洪水（垂直避難）・ブラインド訓練等
- （２）教職員を対象に、消防署員によるＡＥＤ講習を実施する。
 - ・教職員全員参加で、ＡＥＤの使用を含めた救急救命講習を実施した。
- （３）教職員を対象に、警察署員による不審者対応訓練を実施する。
 - ・教職員を対象に、実際に不審者対応を踏まえた検証を行い、警察署員からの指導助言を受ける。（今後２月予定）
- （４）理科の授業において、災害及び防災にかかわっての授業を行う。（５，６年）
 - ・台風、洪水、土砂崩れなどの災害における被害について理解し、自分の命の守り方（逃げ方）を知る。そして、自分ができることを考え、準備しておく。
 - ・ハザードマップの見方について理解する。
 - ・身近な場所で起きた災害について知る。
- （５）水難救助訓練において、水難事故にあった時の対処法を学ぶ。（５年）
 - ・消防署員から、水難事故にあった時の対処法をプールにおいて具体的に学ぶ。



【命を守る訓練】



【ＡＥＤ講習】

3 事業の成果等

| | |
|-----------|--|
| 子供たちに付いた力 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に、状況に応じて判断して、自ら考え行動する力 |
| 今後の方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが生活する環境について、想定される災害などについて気付き、防災・減災の在り方を考え、行動に移そうとすることができるようにする。 ・身の回りの環境や人とのつながりを知り、自分たちに何ができるかを考え、仲間や家族、地域とともにより環境を作り出そうとすることができる。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|--|
| 学 校 名 | 海津市立 海津小学校 (校長 後藤 秀樹) |
| 主な実践内容 (複数可) | ①防災に関する活動 ② 健康安全に関する活動 ③奉仕や福祉に関する活動 |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間、教科(体育科)の時間、学級活動の時間 |

1 活動テーマ

「人とつながり、自ら考え行動する力を身に付けた児童の育成」

2 主な活動内容

(1) 防災に関する活動(全校)

日本各地で災害が起こっている今、自分自身を守る備えや、自分で考え、判断して行動できる力が必要である。

消防署と連携して命を守る訓練を実施し、防災士から海津市で想定される被害について学んだり、パーテーションや段ボールベットを組み立てる体験に取り組んだりすることを通して、児童の防災意識を高めることにつながった。



【消防署と連携した命を守る訓練】



【避難所開設体験】

(2) 健康安全に関する活動

① 歯の健康づくり(全校)

本校児童の歯の健康状態は、う歯罹患率が全国平均を上回っている。その現状を踏まえ、歯科衛生士の方から、口腔の発達段階に合わせて歯や歯肉の健康について学んだり、自分に合った歯磨きの方法を確認したりすることができた。

特に1年生は、保護者と一緒に学ぶことで、歯磨きの習慣づけや仕上げ磨きなど歯の健康を守るために家庭でできる事を学ぶことができた。



【保護者と共に歯磨き指導】

② 救急救命法(5学年)

倒れている人がいれば勇気を出して駆け寄り、助けを求めるなど、自他の命を大切に作る行動力の育成を目指し、海津消防署の方からAEDを用いた一次救命処置についての理論と「あっぱくんライト」を使用した実技を教えてくださいました。この授業を通し、「自分にもできそうだ」「倒れている人がいたら学んだことを生かして行動したい」という思いをもつことにつながった。



【心肺蘇生法講習】

③ 奉仕や福祉に関する活動(5・6学年)

高齢者や車椅子で生活をしている方の困り感をつかむことは容易ではない。実際にどのくらいの困り感であるかは、自ら体験することによって実感でき、そこではじめて具体的なストレスの度合いの理解が深まる。今回、社会福祉協議会から車いすや疑似体験キットを借用し、廊下や階段の歩行などの動きを体験したり、車椅子で生活している方からの話を聞いたりする活動を通して、理解を深めることにつながった。



【車椅子体験】



【福祉施設への訪問】



【高齢者疑似体験】



【志授業】

3 事業の成果等

| | |
|-------------------------|--|
| <p>子供たちに付いた力</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 消防署と連携した命を守る訓練や防災士の話、避難所体験活動を通して、自分の地域で想定される被害や、その対処法について理解を深め、自分の身は自分で守る意識が高まった。 ○ 歯科指導を通して、今の自分の口腔状態を確認し、普段の歯磨きが十分でない事の実感につながった。自分の歯の健康は、歯ブラシ1本で守ることができる事を再確認し、毎日の歯磨きを丁寧に行いたいという気持ちをもつことができた。 ○ 心肺蘇生法の実習に対し、「自分にはあまり縁のないこと」「そんなことは自分の一生でないだろう」ではなく、「自分の身にも起こるかもしれない」「自分にとって大切な家族や友達が突然そうなるかもしれない、そのために必要な学習だ」ということを実感し、真剣に取り組む姿があった。 多くの児童が、もし自分の目の前で倒れた人がいたら、学んだ事を生かして勇気をもって行動したいという思いをもつことができた。 ○ 認知症や高齢者の実態、視覚障がいについての学習を通して、相手を理解し、自分たちにできるサポートや相手に合ったよりよい介助の仕方を学んだ。これらの相互体験を通して、言葉だけでは伝わらない介護者への思いやりの大切さを実感することができた。 ○ 様々な活動を通して、決して他人事ではなく、自分事として捉え、今、自分は何ができるのかを真剣に考える機会となった。 |
| <p>今後の方向</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 歯科衛生士、救急救命士、防災士、社会福祉協議会の方など、地域の専門職の方とのつながりを大切にして、連携した活動を仕組んでいく。 ○ 防災に関する活動では、よりリアルに実際の場面が想定できるような工夫を取り入れ、実践的な内容になることを目指したい。 いざという時に地域の人とつながり、力を合わせて災害や非常時を乗り越える意志をもつ地域社会の一員として育つことを期待している。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|---------------------------|
| 学 校 名 | 郡上市立 相生小学校 （校長 田中 伸次） |
| 主な実践内容 （複数可） | 【健康・安全】 全校 【奉仕(福祉)】 5年 |
| 教育課程上の位置付け | 学校行事・総合的な学習の時間 |

1 活動テーマ

【健康・安全】身の回りにおける危険に気づき、自ら考え判断し、命を守る行動をとる子を育てる。

【福祉(奉仕)】福祉に関わる体験活動を通して、相手の立場や気持ちに気づき、自分にできることを考え行動する子を育てる。

2 主な活動内容

①健康・安全

いろいろな災害を想定した命を守る訓練を実施し、それぞれの状況での危険を知り、命を守る行動ができる力を身に付ける。

<全校で取り組んだ訓練>

| 月 | 訓練 | 訓練の想定・目的 |
|-----|---------|---------------------------|
| 4月 | 命を守る訓練 | 授業中の火災・教室からの避難経路の確認 |
| 5月 | 引き渡し訓練 | 地域の大きな災害: 幼保小中連携による引き渡し訓練 |
| 9月 | 命を守る訓練 | 授業中の地震・特別教室からの避難経路の確認 |
| 10月 | 不審者対応訓練 | 不審者の来校・対応の仕方の確認 |
| 11月 | 命を守る訓練 | 休み時間中の火災・校内のいる場所からの避難の訓練 |



②福祉(奉仕)

外部講師を招いた福祉体験活動を通し、いろいろな立場の人がいることを知り、相手の立場に立って考え、自分にできることを判断して行動する力を身に付ける。

<福祉体験活動>

| 体験活動 | 活動内容 |
|------------|-------------------|
| 高齢者疑似体験 | 高齢者の体の動きにくさを体験 |
| 車椅子体験 | 車椅子を実際に使う体験 |
| 視覚障害者による講話 | 視覚障害の疑似体験と盲導犬への理解 |
| 手話体験 | 相手の立場に立ってできることを学ぶ |
| 点字体験 | 相手の立場に立ってできることを学ぶ |
| 福祉体験活動の発表 | 福祉体験から学んだことを発表 |



3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | <ul style="list-style-type: none">・様々な状況に応じた身を守る方法について理解し、危険を回避し、自分の命を守る方法を身に付けた。・様々な人の気持ちを理解し、相手の立場に立って考えることができるようになった。 |
| 今後の方向 | <ul style="list-style-type: none">・より具体的な想定の中で、状況に応じた身を守る行動ができるようにする。・福祉について学んだことをもとに、自分たちにできることを考え行動できる場をつくる。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|---|
| 学校名 | 郡上市立牛道小学校（校長 猪又 千穂） |
| 主な実践内容 （複数可） | 「 深めよう地域の絆 育てよう進んで働く心 見守ろう地域の子どもたち 」 ～すべては、子どもたちのために！～ ・PTA（牛道っ子応援クラブ）との連携 |
| 教育課程上の位置付け | ・特別活動（学校行事） |

1 活動テーマ

家庭（牛道小PTA、牛道っ子応援クラブ）・地域と連携し、親子の絆・地域との絆を深める

2 主な活動内容

令和3年度より発足した「牛道っ子応援クラブ」を中心に、学校・保護者・地域が協力して、子どもたちのために共に考え創り上げていく活動を進めました。また「楽しいPTA活動」、「参加したくなるPTA活動」にしたいと考えました。そのために、保護者や子どもたちから「こんなことができれば楽しいよね。」、「この活動、家族や地域の人と一緒にできないかな。」などの多くのご意見を聞きながら、活動を考えました。

今年度は地域の施設である「ふくもち園」での魚釣り、魚のつかみどり、捕獲した魚を食す活動やまき割り体験を親子で行いました。ふくもち園は地域で運営されている施設であるため、多くの地域の方々に運営協力をいただき、地域との絆も深めることができた活動となりました。

（1）子どもたちのため、学校のために活動する。

①年1回、奉仕作業（親子）を行います。

※資源回収は行いませんが、常時回収を行っています。1ヶ月に1回、業者回収があります。

②学校の教育活動に協力する。

・登下校の見守りや花活動の植ええ、休日の水やり、読み聞かせ、家庭科の授業補助、スキー教室の講師や補助などに、ボランティアとして積極的に参加する。

③学校の教育活動に参加する。

・学校行事、授業参観、PTA活動（牛道っ子応援クラブの活動）、親子防災教室に参加する。

（2）よりよい家庭生活習慣をつくる。

①家族や地域で、あいさつをする。

②早寝・早起き・朝ご飯を実践し、健康的な生活のリズムを身につける。

③読書や遊び、手伝いなどを一緒にする。

（3）子どもの安心・安全を守る。

①いつでも、だれにでも、どこでも、地域の子どもの声をかけ、交通事故や連れ去り、不審者による被害、災害時の登下校での危険や被害に遭わないように、見守り活動をする。

②地域の方に進んで声をかけ、子どもを見守るお手伝いのお願いやお礼を言う。

③地域の行事や公民館活動に、進んで参加する。

④パソコンをはじめ携帯電話やゲーム機などインターネットに接続できる機器を利用するときのトラブルから、子どもたちを守るために家庭のルールづくりを積極的にする。

3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | 親子での奉仕活動を通して、地域の方や保護者の方と協力して学校を美しくしようという意識が高まった。また、保護者や地域の方々の支援や協力のありがたさを味わうことができた。 |
| 今後の方向 | 今後、さらに地域の中の学校、地域の中に生きる自分という意識を高め、ふるさとや関わる方々を大切にできる子に育てていく。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|-------------------------|
| 学 校 名 | 郡上市立白鳥小学校（校長 村瀬 眞実） |
| 主な実践内容 （複数可） | ②健康安全に関する活動 |
| 教育課程上の位置付け | 体育の時間 特別活動の時間 総合的な学習の時間 |

1 活動テーマ

運動に関連する知識や文化に触れ、進んで楽しく運動することを通して、体力や運動への考え方を広め深める

2 主な活動内容

① スポーツ講演会

ラグビー 元日本代表 田坂藍さんを講師にお招きし講演会とスポーツふれあい活動を行った。講演会では、田坂さんとラグビーとの関わり、ラグビーを通して学んだことについて体験談をきき、スポーツを通して自己実現を図ることや他者とふれあうことの素晴らしさを学んだ。ふれあい活動では、ラグビーボールを使用して、異年齢縦割り班ごとにスポーツレクレーションを行い、体を動かすことを通して班の親交を深めた。

② にこにこチャレンジ

児童の健康・体力向上を目指し、「にこにこチャレンジ」と称して、異年齢縦割り班ごとに「綱引き」「玉入れ」「リレー」「ボール運び」の4種目を行った。技能ポイントについて相互にアドバイスをしたり、励まし合ったりして、気軽にスポーツを楽しむことができた。また、全ての児童が、運動会の種目として「綱引き」「リレー」「ボール運び」から2種目選択して競技を行った。

③ にこにこジャンプ

「チャレンジスポーツ in ぎふ」の種目のひとつである「8の字跳び（3分間）」に、年間を通して取り組んだ（13回実施）。異年齢縦割り班で、1年生に縄に入るタイミング、ジャンプする地点、跳んだ後の縄の抜け方などを教え合い、繰り返し練習することとおして技能を向上させた。毎回、回数計測を行い、記録を更新していくことを励みにして、協力して取り組んだ。正式な記録会の場として、運動会（9月）と最終記録会（12月）を設定した。最終記録会では、どの班も取組み当初から比して格段の伸び率を記録し、最高200回を記録する班もあった。縄跳びに継続して取り組んだことで、どの児童にとっても基礎的な健康・体力の向上に加え、身体の巧緻性やリズム感の涵養につながった。また、仲間と楽しんでスポーツを行うことで、進んで運動をする習慣づくりにもつながった。

3 事業の成果等

| | |
|-----------|--|
| 子供たちに付いた力 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康、基礎的な体力の増進 ・運動技能の向上（筋力・巧緻性・リズム感など） ・主体的に運動に取り組む習慣づくり ・仲間とともに工夫して運動に親しむ態度 |
| 今後の方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度を基盤として、主体的に運動に取り組み続けることにより、さらなる健康増進や体力向上を図る。 ・体力テストの各種目学校平均値の向上を図る。 |

令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|---|
| 学 校 名 | 岐阜県郡上市立 明宝小学校 (校長 和田 昌俊) |
| 主な実践内容 (複数可) | <ul style="list-style-type: none"> ・SDG s に関する活動 (完熟堆肥作りを通じた地域貢献) ・奉仕や福祉に関する活動 ・健康安全に関する活動 |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間 特別活動の時間 体育の時間 |

1 活動テーマ

自分たちができる持続可能な取組を考える。進んで運動に取り組み、運動の楽しさを実感するとともに体力向上の必要性について考える。

2 主な活動内容

| | |
|-----|---|
| 4月 | <ul style="list-style-type: none"> ・キックオフの会 (全校集会で本校が JRC に加盟していることや、赤十字の活動についての理解を深めた) ・芝桜の見学 (4年生) ・甚兵衛桜見学 (1・2年生) |
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジスポーツぎふの取組内容を知らせた (全校) ・生ごみから完熟堆肥を作る意義を学んだ (6年生) |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> ・AED 講習を通して、命の大切さを実感した (5・6年生) |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・完熟堆肥作りのスタート (6年生) |
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域に指導者がいる文化遺産 (寒水掛踊り) のよさについて、地域の方から話を聞き、学んだ (4年生) |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> ・間伐体験を行い、森林の役割について理解を深めた (5年生) ・高齢者疑似体験 (6年生) |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会で、総合的な学習で取り組んだ内容について発表し、地域に発信した (全校) ・「明宝小チャレンジラン」に取り組んだ (全校) ・車いす体験 (6年生) |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ・芝桜を自分たちの学校に植えた (4年生) ・手話体験 (6年生) |
| 2月 | <ul style="list-style-type: none"> ・完熟堆肥の活用の仕方について考える (6年生) ・総合的な学習の時間に取り組んだことをまとめ、全校で交流し、次年度への目標づくりに生かす (全校) ・チャレンジスポーツぎふへのまとめのチャレンジをする |

3 事業の成果等

| | |
|-----------|--|
| 子供たちに付いた力 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の取組を通して、ふるさとを流れる川の実態やよさを守ることの重要性について考え、完熟堆肥作りを通して、豊かな自然の恵みを生かしながら課題に立ち向かう力を育んだ。 ・福祉に関心を示し、お年寄りや体の不自由な方との交流を通して、福祉の重要性について考える力が身に付いた。 ・運動を通して運動の楽しさに気づき、体力向上の必要性について考え、継続的に運動に取り組むことの重要性を学んだ。 |
| 今後の方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・完熟堆肥作りを通して、自分たちにできることの可能性をさらに広げ、地域貢献活動を充実させる。 ・奉仕や福祉に関する取組を通して、地域貢献活動を充実させる。 |

令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|-----------------------------------|
| 学 校 名 | 七宗町立上麻生小学校（校長 板津 弘文） |
| 主な実践内容 （複数可） | ①防災活動 ②健康安全に関する活動 ③奉仕や福祉に関する活動 |
| 教育課程上の位置付け | 道徳・特別活動・総合的な学習の時間 |

1 活動テーマ

「命と平和・友情」の大切さについて主体的に考える子の育成

～自分の命、仲間の命、まわりの人の命を大切にし、進んでかわり、

感謝の心をもつ上麻生っ子を目指して～

2 主な活動内容

（1）平和学習（平和・友情人形メリーちゃんについて）

2名の講師の方に来ていただき「平和・友情人形メリーちゃん」について6年生がお話をうかがった。実際の体験をもとにお話をいただくことができ、とても貴重な時間となった。

（2）命を守る訓練

命を守る訓練を毎月様々な想定で実施した。自分の命は自分で守る意識を高め、1人でも対処できる方法を考えることができた。



（3）歯磨きキャンペーン 歯科講話

健康委員会の提案による歯磨きキャンペーンを行った。また、歯科医による講話や親子でのカラーテストも実施し、歯磨きの大切さについて考えることができた。

（4）福祉体験（高齢者体験・手話体験）

社会福祉協議会、手話サークルの方々のご協力により5年生対象に実施した。高齢者の方々の大変さを身をもって感じるとともに、自分に何ができるかを考えることができた。

（5）なかよしフェスティバル

「仲間と協力すること」「地域を知ること」をねらいとして、なかよし（学年縦割り）グループにより活動した。リーダーを中心とし、どのグループも約束を守って、笑顔いっぱい活動することができた。

（6）ひびきあい集会

児童委員会による「ありがとういっぱいキャンペーン」の報告と、親子でSGE（構成的エンカウンター）活動を行った。相手を思いやることの大切さを再認識することができた。



平和学習



地域の方とのふれあい活動



歯磨きキャンペーン



高齢者体験



なかよしフェスティバル



ひびきあい集会

3 事業の成果等

| | |
|------------------|--|
| <p>子供たちに付いた力</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 命を守る訓練や防災学習から、自分の命は自分で守る意識や、防災知識を高めることの大切さに気づくことができた。1人でも対処できる方法を考え実行していこうとする気持ちをもつことができた。 ・ 福祉体験から、自分や他者の生き方に目を向けることができた。自分や相手のためになる行動をし、差別なく思いやりの気持ちをもって生活していきたいと考える子が増えた。 ・ 歯科保健衛生活動から、セルフメディケーション力を身に付けていく必要性について気づくことができた。 ・ 「なかよしフェスティバル」や「ひびきあい集会」「感謝の気持ちを伝える会」の活動から、相手を思いやることの大切さに気付くことができた。また、人とのあたたかなかわり方について考えることができた。 |
| <p>今後の方向</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の命は自分で守りきる意識や行動力をより高めていくための訓練内容を、さらに工夫し実施していきたい。 ・ 「命と平和・友情」の大切さについて、主体的に考える子の育成を目指して、今後も教育活動全般を通し計画的に実施していきたい。 |

令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|-------------------------------|
| 学 校 名 | 下呂市立竹原小学校（校長 横井 真） |
| 主な実践内容 （複数可） | ①防災活動…4年生 ③奉仕や福祉に関する活動…3年生 |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間 |

1 活動テーマ

「知ろう！」「考えよう！」「やってみよう！」 ふるさと竹原

2 主な活動内容

【防災学習…4年生】①防災活動

（防災について学ぶ）

市の危機管理課防災担当の方を招き、下呂市や岐阜県で過去に起こった災害を例に、災害の種類を学んだ。

（水害・土砂・地震災害について）

土砂災害の被害の様子、学校周辺や児童の自宅周辺のハザードマップでの災害発生危険度、避難の際に大切にすること等を学んだ。

地震時の際に危険となる箇所や被害を防ぐ対策を学んだ後、校舎内や自宅の危険箇所を調査した。

（避難所設営体験）

避難所に指定されている体育館の防災備蓄庫に常備されている防災資機材を実際に使ってみる避難所設営体験を行った。新聞紙を薪代わりに使用する野外炊飯器（※助成金で購入）で炊飯を行う体験も行った。

（防災の呼びかけ&保護者と避難所設営体験！）

防災学習で学んだことをまとめた防災ハンドブック（※助成金で購入した印刷機使用）を作成、保護者に配付し防災を呼びかけた。また、避難所設営や野外炊飯の体験もしてもらった。



【福祉学習…3年生】③奉仕や福祉に関する活動

（「福祉」って何だろう）

社会福祉協議会の方を講師に、「福祉とは何か」を考えたり、身近な福祉活動の例（高齢者福祉、障害者福祉）を学んだ。



（「ふれあいサロン」への参加）

高齢者福祉の例として、学校近くの公民館で行われているボランティア活動「ふれあいサロン」を見学し、活動の内容や意義を知った。自分たちにも何かできることはないだろうかと考え、お年寄りの方が楽しめるゲームを企画準備し、サロンの一部で行った。



地域の高齢者サロンに参加

（募金活動）

地域の福祉のために「赤い羽根共同募金」が活用されていることを学び、校内及び校外で募金の大切さを呼びかけるとともに募金活動を行った。※募金を呼び掛けるチラシ（校内＆地域配付）は、助成金で購入した印刷機を使用



校内での募金活動



募金呼びかけチラシを印刷



地域で街頭募金活動



3 事業の成果等

| | |
|------------------|--|
| <p>子供たちに付いた力</p> | <p>①防災活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の現状や原因、被害を最小限にとどめる方法を知ることができた。 ・災害発生時の避難や対処法について避難所設営体験を通して学ぶことができた。 ・自らの命は自ら守る「自助」の意識と、災害時に個々が孤立することなく、協力して乗り越える「共助」の意識が高まった。 <p>③奉仕や福祉に関する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの周りには様々な困難を抱えている人がいることや、その人たちを支援する様々な「福祉」が行われていることを知ることができた。 ・様々な福祉に関する体験を通して、自分や自分たちに何ができるのか考えたり、考えたことを実行したりする力が付いた。 |
| <p>今後の方向</p> | <p>どちらの活動も、関係機関と連携した講義や体験活動を通して、児童の「知る(気づく)」「考える」「やってみる(実行する)」力を高めることができた。</p> <p>本校では、次年度も引き続き総合的な学習の時間において、3年生で「福祉学習」、4年生で「防災学習」を行う。</p> <p>今年度 JRC 未来応援プロジェクトの助成金で購入した、プリンターと野外炊飯釜も引き続き活用させていただきます。</p> |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|---|
| 学 校 名 | 下呂市立馬瀬小学校 (校長、山下 和博) |
| 主な実践内容 (複数可) | ①防災活動、③奉仕や福祉に関する活動 ⑤SDG sに関する活動(主に目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標15「陸の豊かさを守ろう」について) |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間、学級活動、学校行事 |

1 活動テーマ

馬瀬の魅力再発見！ふるさと大使を目指して

ふるさと馬瀬の良さや課題に気づき、自分達に何ができるかを考え、調べたことを発信・提言を行うなど具体的なアクションができる児童の育成

2 主な活動内容

○年3回(4・9・1月)の、命を守る訓練の実施

○3～6年生の総合的な学習のテーマ「馬瀬の魅力再発見！ふるさと大使を目指して」における

○体験活動

- ・パラスポーツ体験型出前授業

車いすバスケットボールの体験を通し、心身機能の障害は種類や程度によって様々あり、社会の中で困っていることや不便なことがそれぞれ違うこと。また、障害があることが外見からは分からない人もいることを知り、それぞれの障害の特性や、障害のある人のことを理解して、その人の目線になって周りをみると、何がバリアになっているのかを学んだ。

- ・高齢者疑似体験学習の実施

- ・高齢者介護施設訪問

地元デイサービスセンター「つつじ苑」を訪問し、施設利用者との交流を実施した。

- ・地域参加型運動会(マゼリンピック)の開催

地域住民と一緒に活動できる種目を、地域の方と立案・計画・実施する協働活動に取り組んだ。

○総合的な学習＝体験活動を通した学び

- ・地元有識者を学校に招いて、馬瀬地域の歴史と民話、自然環境を学ぶ学習に取り組んだ。

- ・地元漁業協同組合と連携し、川に住む生物調査及び稚鮎の放流体験活動を体験した。

- ・地元神主さんを学校に招き、馬瀬地域にある神社仏閣について学ぶ会と現地調査活動を実施。

- ・地元企業「馬瀬建設(株)」の協力で、木や森の働きを学ぶ会、馬瀬川の源水地を探索会の実施。

- ・オンライン授業交流「地域紹介及び授業交流」を通して、児童の情報発信力の育成に努めた。

○自分達の学んできたこと(気づき・考え・実践する)の学習発表会の実施。

○下呂市社会福祉協議会萩原支部と連携し、赤い羽根共同募金活動に参加。

○自分の命は自分で守る判断力や行動力を身に付ける防災教育の実施。

3 事業の成果等

| | |
|------------------|--|
| 子供たちに付いた力 | <ul style="list-style-type: none">・教育活動全体を通して、学んだり調べたりした内容や体験を通して、気づき、考え実践し、学びをより深め、情報発信力やオンライン授業で身につけたことを取り入れプレゼン力を高めた。 <p>例1：「共生社会の実現」では、パラスポーツ体験型出前授業や高齢者疑似体験学習や高齢者介護施設（つつじ苑）での交流を通して、どんな活動を仕組んだら相手の方と共感することができるのか考え、お互い理解し合える活動や交流ができた。</p> <p>例2：「馬瀬の魅力再発見！ふるさと大使を目指して」では、馬瀬川に生息する生物や稲作体験を通して、馬瀬で育った魚（鮎）やお米が美味しいのは、水がきれいで、その水を育んでいる森林などの環境が保護されていることを知り、オンライン授業交流でふるさと馬瀬の魅力と合わせて発信することができた。</p> <ul style="list-style-type: none">・命を守る訓練や、シェイクアウト訓練を通して「自助・共助」の意識や行動力を高めることができた。 |
| 今後の方向 | <ul style="list-style-type: none">・今年度と同様に、青少年赤十字の理念と本校の教育目標「自ら考え共に学び心豊かにやりぬく馬瀬の子」を連動さ、教育活動全般に取り入れた活動にしていく。・総合的な学習の時間は、ふるさと馬瀬の魅力をより深く追求し、これからも、ふるさとの良さや魅力、課題と改善案を発信し続けられる学びを目指す。・「自分の命は自分で守る（自助）」意識や行動力をより高めていくための「命を守る訓練」やシェイクアウト訓練などを継続すること、また、関係機関と連携した防災教育の更なる工夫を重ねていく。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|--|
| 学 校 名 | 岐阜市立岐阜清流中学校（校長、 村田 伊津子） |
| 主な実践内容 （複数可） | ① 防災活動 ② 奉仕や福祉に関する活動 ⑤ SDGs に関する活動 |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間 学級活動の時間 |

1 活動テーマ

岐阜の清流「長良川」と共に生きる

2 主な活動内容

① キックオフの会の実施

- ・ お昼の放送で、本校が JRC に加盟していることや日本赤十字の活動内容、校区の岐阜赤十字病院が担っている役割等について説明。同時に、今年度から、防災学習をスタートすることや地域ボランティアスタッフ(CVS)登録についても紹介し、ボランティア活動に対する興味を喚起。
- ・ 清流の国ぎふ 防災・減災センターの村岡特任教授より、防災学習の重要性や地域が抱える災害リスクについて学ぶ。

② 地域の災害リスクについて学習

- ・ 則武小、早田小、それぞれの小学校で学んできた地域の魅力を交流するとともに、岐阜清流中の立地場所が長良川の古々川の跡地であることを学習。
- ・ 能登地震と同程度の地震や、今後想定されている南海トラフ巨大地震が起きた場合の被害状況について、清流の国ぎふ 防災・減災センター村岡特任教授を再び招き、講義を受講。

③ 体験学習

- ・ 校区のウォークラリーや市内班別研修等を通じて、地域の特色や防災上の危険個所を確認。
- ・ 長良川清掃や金華山登山道整備等のボランティア活動に参加し、金華山や長良川の美しさを体感。
- ・ 早田自治会連合会、則武自治会連合会が主催する防災訓練に参加。
- ・ 消防署の方を招き救命救急講習を開催し、AED の使い方や心肺蘇生トレーニングキットを使用した心肺蘇生法を学習。

④ 学習発表会

- ・ プレゼンテーションによる発表会を実施。

3 事業の成果等

| | |
|-----------|--|
| 子供たちに付いた力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域が抱える災害リスクや被害を最小限にするために必要な知識。 ・ 川の清掃や金華山登山道整備等、地域の活動に積極的に参加するボランティア精神。 ・ 地域の魅力を守る市民となるため、生徒の代表が防災士の資格を取得。 |
| 今後の方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各小学校や各自治体との連携をさらに深め、合同で防災訓練を実施する等、災害時に地域のために動ける中学生を育成する。 |

令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|--|
| 学 校 名 | 岐阜市立 梅林中学校 (校長 今西 卓) |
| 主な実践内容 (複数可) | ⑤SDGs に関する活動 (目標 No 3 全ての人に健康と福祉を、目標 No11 住み続けられるまちづくりを) |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間 |

1 活動テーマ

清流長良川流域の暮らしを守る岐阜の人々の思いに触れ、つながり生きる喜びを感じる体験活動

2 主な活動内容

・岩戸川清掃ボランティア(4, 5, 10月)

各回 10 名程度の希望者が参加し、地域の方とともに、校区を流れる岩戸川の清掃に取り組むことで、美しい地域を守っていこうとする思いを共有することができた。

・環境ツアー①(6/17㊦)

中学 1 年生が郡上市に出かけ、清流長良川鮎パークと郡上八幡市街で環境学習を実施した。

清流長良川鮎パークでは、鮎のつかみ取りと捕まえた鮎を串打ち体験をした。生徒の中には、生きた鮎に串をさすことに抵抗を感じる者もいたが、私たちの暮らしがそういった生業の上で成り立っていることを学び、丁寧に作業に取り組むことができた。

郡上八幡市街の散策では、美しい水を利用し生活をしてきた地域の文化に触れ、豊かな環境を守りつなげていくことの大切さを感じることができた。



・環境ツアー②(9/18㊦)

中学 1 年生が、岐阜市の鶺鴒ミュージアムと河川環境楽園を訪問し、川が育む文化と環境保全について学んだ。

河川環境楽園では、岐阜県の河川環境を守る取り組みが紹介され、自分たちの身の回りの工夫によって美しい環境が守られていくことを学んだ。また、鶺鴒ミュージアムでは、豊かな河川環境が育んできた岐阜市の伝統文化である鶺鴒の歴史に触れ、自分たちも伝統を受け継ぎ守っていこうとする意欲を深めることができた。



3 事業の成果等

| | |
|-----------|--|
| 子供たちに付いた力 | 郷土の文化や環境を大切にしていこうとする思い |
| 今後の方向 | 自分たちの地域が抱える課題を見つけ、より良くしていくための方法を考えることができる生徒の育成 |

令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|--|
| 学 校 名 | 山県市立高富中学校 （ 校長 日置 智夫 ） |
| 主な実践内容 （複数可） | ①防災活動 ②健康安全に関する活動 ⑤SDGsに関する活動（目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標16「平和と公正をすべての人に」） |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間、学級活動の時間 |

1 活動テーマ

ふるさと高富を知り、考え、守ろう、私たちの命

2 主な活動内容

- ・キックオフの会
- ・命を守る訓練、垂直避難訓練
- ・5校区の会（地域と連携）
- ・防災研修（HUG研修、防災と科学の授業、防災・減災の授業）
- ・家庭における防災教育（家庭での取組、家庭教育学級とコラボ）
- ・シェイクアウト訓練、緊急地震速報対応訓練
- ・避難所開設研修
 - 1年生：災害用トイレの設置と利用、備蓄倉庫内の見学（市職員防災担当）
 - 2年生：三角巾を使った応急処置の仕方について（日本赤十字社）
 - 3年生：毛布を使った傷病者の搬送、保温方法について（日本赤十字社）
- ・職業講話「キャリアナビ」（地域と連携）
- ・各種講座開催（思春期、歯科、薬物乱用防止）
- ・いじめについて考える日（異学年縦割りグループ）、ひびきあいの日
- ・いじめ防止サミット（市内小中高と連携）

3 事業の成果等

| | |
|-----------|--|
| 子供たちに付いた力 | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観をお互いに認め合い、受け入れ合う機会と環境を自分たちで作り出すとともに、自他の命(心身)を大切する力 ・自分たちの住む校区(高富、富岡、桜尾、梅原、大桑)の特色や魅力に気づき、住みやすい地域にするために自ら発信、行動する力 ・自他の命を守るための行動について考え、自ら行動することができる力 |
| 今後の方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住む地域の防災訓練へのより積極的な参加 ・生徒が地域に密着し、地域の一員としてできることを考え、自ら行動する実践力の強化 ・学校応援団本部(学校応援協議会)を中心とした、地域連携による教育活動のさらなる推進 ・保護者の協力体制の強化 |

令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|---------------------------------|
| 学 校 名 | 山県市立伊自良中学校 (校長 森川 勝介) |
| 主な実践内容 (複数可) | ② 奉仕や福祉に関する活動 ⑤ SDG s に関する活動 |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間、美術、学活 |

1 活動テーマ

地域に伝わる「柿渋染め」の体験を通して、講師の生き方・考え方に触れ、地域や誰かのために自分たちができることを考えよう。

2 主な活動内容

(1) 「柿渋染め」体験を通して

ア 働く大人の講演会 (2年生：総合) 講師：柿 BUSHI (山県市平井) 加藤 慶 様
講師の方の伊自良に移住した経緯や、「柿渋染め」に対する思いなどを聞く。

イ 柿渋染め体験 (3年生：美術)
柿渋染めの基本を学び、伝統文化に対する理解を深める。

ウ 伊自良中央公民館文化祭
柿渋で染めた手ぬぐいを展示する。



(2) 奉仕や福祉に関する活動

ア 岐阜希望が丘特別支援学校との交流 (全学年：総合)

①互いの学校紹介を通して、希望が丘特別支援学校のことを知り、2回目以降の交流の見通しをもつ。(7月オンライン全校：総合)

②希望が丘特別支援学校との交流 (2年生12月：総合、学活)

事前に希望が丘特別支援学校の先生から学校や生徒の様子話を聞き、そのことを参考にしながら交流会の計画を立てる。希望が丘特別支援学校を訪問し交流する。

③希望が丘特別支援学校との交流 (1年生1月：総合、学活)

特別支援学校を訪問し、学校や生徒の様子を見学し、交流を図る。

イ 職場体験、保育実習

①高齢者福祉施設での職場体験、高齢者体験、認知症に関する講座等 (1, 2年生：総合)

②保育園での職場体験、保育実習 (2年生：総合 3年生：家庭科)

ウ 地域ボランティア (全学年)

地域の行事 (サマーフェスティバル、市民運動会、栗祭り) へのボランティア参加

3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | 地域の伝統文化の素晴らしさや継承することの値打ちや使命を感じ取り、伊自良で生きる一人として、今後の自分の生き方を考えることができた。 |
| 今後の方向 | 「地域創生」と「福祉」の視点から、柿渋染めに関わる体験学習の継続と、校区の福祉施設や保育園との交流の充実を図ると共に、「伊自良の魅力」を発信できる生徒の育成を目指したい。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|---|
| 学 校 名 | 大垣市立江並中学校 （校長 田中 正樹） |
| 主な実践内容 （複数可） | ①防災活動 ②健康安全に関する活動 ③奉仕や福祉に関する活動 ④SDGsに関する活動 <ul style="list-style-type: none"> ・目標 No.3 すべての人に健康と福祉を ・目標 No.5 ジェンダー平等を実現しよう ・目標 No.10 人や国の不平等をなくそう ・目標 No.11 住み続けられるまちづくりを ・目標 No.15 平和と構成を全ての人に |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間、学級活動、道徳 |

1 活動テーマ

江並中人権宣言を具現し、誰もが安心・安全に生活できる江並中

2 主な活動内容

| 活動名 | 活動内容 |
|---------------|--|
| 命を守る訓練① | 火災避難訓練 避難場所、経路、点呼方法の確認 |
| ハートフル集会Ⅰ | NPO法人「ASTA」による講話を行い、LGBTQに関する理解を深め、誰もが生活しやすい社会の実現に向けて行動しようとする意欲を高める。 |
| シトラスリボンプロジェクト | シトラスリボンプロジェクトの概要を理解し、作成する。 |
| 命を守る訓練② | シェイクアウト訓練 身の安全の確保、避難経路の確保について |
| 江並クリーン活動 | 校風活動を行う意味を理解し、学校内で活動を広げ、校風活動の範囲を地域へも拡大する。 体育館の清掃活動 |
| ハートフル集会Ⅱ | クラス毎で人権課題を設定し、取組の成果を交流する。 |
| 命を守る訓練③ | 火災避難訓練（予告無し） 防火扉作動時の避難の仕方 能登半島地震、豪雨災害時の派遣消防隊員の話 |

3 事業の成果等

| | |
|-----------|--|
| 子供たちに付いた力 | 日常生活や学校行事を通して、人との関わりを通して人権意識を高く持ち、自分達にはどんな行動ができるかを考え、実践することができた。 |
| 今後の方向 | 「江並中人権宣言」や各学級の人権宣言をもとに、他者理解・生命尊重・自己実現などの人権意識の向上を図る。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|-----------------------|
| 学 校 名 | 揖斐川町立谷汲中学校 (校長 香田 勝頼) |
| 主な実践内容 (複数可) | ③奉仕や福祉に関する活動 |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間 |


1 活動テーマ

お互いを大切にし、誰もが安心してらせる谷汲

2 主な活動内容

| 月 | 主 な 活 動 内 容 等 |
|-----|--|
| 年 間 | 総合的な学習の時間に、年間を通して、谷汲の活性化に向けたプロジェクトを全校で実施する。課題設定や具体的な活動内容については、4月に生徒と共に決定していく。 |
| 4 月 | |
| 5 月 | キックオフの会（全校放送で本校が JRC に加盟していることや赤十字等について話をする。） |
| 6 月 | 揖斐特別支援学校との交流①（3年生が遊びなどを通して交流をする。） 小中なかよし交流（1年間交流するグループの顔合わせを行う） |
| 7 月 | 谷汲中夏祭り（地域交流・地域貢献を目的に、生徒会が夏祭りを開催する。） |
| 8 月 | |
| 9 月 | 小中学習交流会（2年生が小学生に授業を行う） |
| 10月 | サンサンフリーマーケットへの出店及び募金活動 （華厳寺で開催されるフリマに運営や出店などにボランティアで参加をする。合わせて募金活動も行う） たにぐみ幼児園交流（生徒の制作したおもちゃで、幼児と交流をする。） |
| 11月 | 小中合同ひびきあい集会 揖斐特別支援学校との交流②（3年生が遊びなどを通して交流をする。） 独居高齢者の方へのプレゼント（生徒の制作したプレゼントを贈る。） |
| 12月 | 草木染体験①（来年度の独居高齢者にプレゼントするための試作） |
| 1 月 | 草木染体験②（来年度の独居高齢者にプレゼントするための試作） |
| 2 月 | 竹あかり作成（生徒会行事や地域の行事に貸し出したりするために作成する） |
| 3 月 | |

3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | 小学生や地域の方たちと関わることで、コミュニケーションの力や自己表現をする力がついてきた。また、「ふるさと谷汲」に対する誇りや地域に役立ちたいという願いをもつようになった。 |
| 今後の方向 | 地域との連携をさらに図りながら、谷汲を活気あふれる地域にするために、今後も実践していく。  |

令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|--|
| 学 校 名 | 郡上市立 高鷲中学校（校長 河井 奈美） |
| 主な実践内容 （複数可） | ③ 奉仕や福祉に関する活動 ② 健康安全に関する活動 ⑤ SDG sに関する活動（目標 No11 住み続けられるまちづくりを） |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間、学級活動の時間 生徒会活動 |

1 活動テーマ

地域が誇る高鷲中生 ～高鷲を考え、高鷲で動く～

2 主な活動内容

（概要）

- ・高鷲町（郡上市）の魅力、行事、文化を知り、自分たちで何が出来るかを考え、保護者や地域の方を巻き込んだ活動を実践し、魅力ある地域づくりに取り組むことが出来る。

（活動）

○「第2回 TAKASU ふるさと DAY」の実施

- ・郡上市高鷲町地域の魅力である「郡上おどり・白鳥おどり」「鮎の友釣り」「郷土料理」の3つのコースを設定し、それぞれの活動で地元の方を講師として招いて、活動を行った。
- ・それぞれのコースで、地域講師の方に教わりながら活動することで、郷土の実感を体験できた。

○郡上おどり発表会参加

- ・TAKASU ふるさと DAY で郡上おどりのおどり方を習得し、魅力を感じた生徒が郡上おどり発表会に自主的に参加した。

○たかすふるさと祭りへの参加

- ・ふるさと祭りの中学生実行委員として、企画や広報活動に参加して、積極的に活動した。
- ・当日は、ボランティアとしてブースの手伝いをして、地域の行事を盛り上げる事ができた。

○花壇まめなかなプロジェクトの実施

- ・中学生が主体となり、校区の小学生にも呼びかけて校区内の道路沿いの花壇の整備や花植え活動を行った。
- ・学校運営協議会とも協力して、地域の方々を巻き込んだ活動に発展させていく。

3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | 地域に関わる様々な活動を通して、地域の中で自分たちにできることを考え、実行する力を高めつつある。 |
| 今後の方向 | より一層、地域の実情を知り、地域の方の思いや考え方を理解して、地域に関わる活動の質を高めると共に、将来にわたって地域に貢献しようとする人材育成の一助となるよう活動を推進していく。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-------------|-----------------------------------|
| 学 校 名 | 郡上市立郡南中学校 (校長、古屋 寿彦) |
| 主な実践内容(複数可) | ⑤SDGs に関する活動 (11, 13, 14, 15, 17) |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間 |

1 活動テーマ

持続可能な社会の創り手の育成

—SDGs×清流長良川 総合的な学習の時間を中核に置いた教育課程の創造—

2 主な活動内容

| 月 | 主 な 活 動 内 容 等 |
|------|--|
| 4 月 | キックオフ会 (全校集会で本校が JRC に加盟していることや、持続可能な清流長良川の見通し) |
| 5 月 | アウトドアフェアⅠ(1年生…清流長良川でアウトドア体験) 長良川河口堰(2年生…建設当時にかかった方を招聘し、河口堰の是非について自分の考えをもつ) 郡上魅力体験満喫ツアー(3年生…郡上市の教育旅行について計画立案から実行・修正) |
| 6 月 | 清流長良川の森・川・海のつながり(1年生…アウトドア企業、林業の方からの出前講座) 清流長良川の文化伝承(2年生…伝統漁法の一つ鵜飼いについて学び、実際に鵜飼船に乗船) |
| 7 月 | |
| 8 月 | 清流長良川の清掃活動(全校…ボランティアを募り清流長良川の清掃活動を行う) 美並夏祭りの企画・運営(全校…ボランティアを募り商工会と協働して出し物の企画から運営に参画する) |
| 9 月 | アウトドアフェアⅡ(1年生…粥川の森での植林活動、森の利活用) アウトドアフェアⅢ・郡上研修(1年生…あゆパークにて、長良川システムを学び、友釣り体験／長良川の上流散策、自然体験) |
| 10 月 | 体験のまとめ(1年生…郡上研修、アウトドアフェアから郡上や美並の魅力をまとめる) 長良川の水質調査(1年生…郡上市環境課と協働) 地元企業と持続可能なまちづくりへの取組(2年生…企業と協働して持続可能な取組に参画) 阪神淡路研修(3年生…淡路島パソナでの SDGs農業体験) |
| 11 月 | 美並魅力発信(1年生…これまで体験してきた魅力を発信する方法を計画) 取組発表会(全校…これまでの取組とこれからの活動を地域やお世話になった講師の方に発信) 教育旅行提案(3年生…郡上市の魅力を体験して学べる SDGsツアーを提案) |
| 12 月 | 地元企業と持続可能なまちづくりへの取組(2年生…企業と協働して持続可能な取組に参画) 美並魅力発信(1年生…来年度入学してくる小学生へ発信) |
| 1 月 | 地元企業と持続可能な清流長良川やまちづくりへの取組(2年生…マルシェ出店の企画) |
| 2 月 | 地元企業と持続可能な清流長良川やまちづくりへの取組(2年生…マルシェ出店) 振り返り(全学年…これまで体験してきた活動の振り返り) 学習のまとめ(3年生…来年度に向けて) |
| 3 月 | 郡南マルシェ開催予定 学習のまとめ(1, 2年生…来年度に向けて) |

3 事業の成果等

| | |
|-------------------------|--|
| <p>子供たちに付いた力</p> | <p>○教科横断的な視点より</p> <p>総合的な学習の時間での資質能力の視点を教科指導の中へ取り入れていくことで、総合的な学習で身に付けた力を生かしながら教科において地を發揮できた。教科でつけた力を生かしながら総合的な学習の時間で發揮することが、総合的な学習の時間と教科等の往還的な問題発見・解決能力は、汎用的な資質・能力となった。また、リアルな現実社会に起きている問題を解決していく活動をとおり、生きて働く問題発見・解決能力を育むことができた。</p> <p>○令和6年度全国学力学習状況長質問紙より</p> <p>全国学力・学習状況調査分析の生徒質問紙「地域や社会をよくするためになにかしてみたいと思う」の結果では、令和4年27%だったものが令和6年では87.9%まで向上させることができています。</p> <p>また、「当てはまる」と回答できる本校生徒は30.3%となり、同質問対して、2年生の生徒は52.9%の生徒が「当てはまる」と回答している。この結果は、「フィールドワーク」と「出前授業」のリアルな体験の成果である。地域に出かけ魅力を感じ課題に目を向け探究に取り組めることや地域で活躍している方の生き方に触れ、多様な他者と協働してリアルな学びを体験してきた結果であると考えます。</p> <p>○地域ボランティア登録人数より</p> <p>美並町中学生地域ボランティア団体「遊YOU会」の申し込みは、例年10名程度であったが令和6年には36名を超え、全校生徒の3割に当たる発足以来最高の申込数であった。まさに地域に対する意識が変わってきたのだと考える。良質な体験や経験が、持続可能な社会の一員として貢献したいという気持ちにつながり、より汎用的な問題発見・解決能力となってくると考える。</p> <p>～遊YOU会の登録数（平成20年度発足）～</p> <ul style="list-style-type: none"> *平成29年度・・・6人 *平成30年度・・・9人 *平成31年度・・・21人 *令和 2年度・・・0人（コロナ禍のため募集せず） *令和 3年度・・・15人 *令和 4年度・・・19人 *令和 5年度・・・19人（コロナ5類以降） *令和 6年度・・・31人 <p>総合的な学習の時間の取組や地域とのかかわりの中で、地域の方の地元をよくしようとする思いや姿にたくさん触れ、地域や社会への興味関心が高まったり、「自分たちも地域のためになにかしたい。」「地域を守っていききたい。」「地域に貢献していききたい。」という思いが醸成されてきている</p> |
| <p>今後の方向</p> | <p>○カリキュラムの精選とブラッシュアップ</p> <p>○教科等横断的な資質能力の育成に向けた工夫と継続的な取組</p> <p>○活動の運営に関わる持続可能なシステムの構築</p> |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|--|
| 学 校 名 | 恵那市立恵那西中学校 （校長 楯 博子） |
| 主な実践内容 （複数可） | ①防災活動 ②健康安全に関する活動 ③SDGs に関する活動（目標 No. 11 住み続けられるまちづくりを） |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間、特別活動 |

1 活動テーマ

地域住民の一人として主体的に行動できる力の育成

2 主な活動内容

(1)地域の担い手として貢献できる地域社会人を育てる防災教育の実施

- ・ 恵那市危機管理課を通じて、地域の防災士と連携して各学年で系統的に防災活動に取り組んだ。1年生では、災害時の避難に関する対応について、カードゲームやDIG 訓練を通じて、地域の特色を知ったり、自分の判断力を高めたりする活動を実施した。2年生では、学校が災害時の避難所となった場合、自分の避難行動と避難所での生活を想定して、仲間と議論し合いながらよりよい方法を考え合った。3年生では、実際に被災した教師の話や災害救助に向かった自衛隊員の話や消防士も含めて、土のう作りや救急救命法等、自分の力で人命を救うためにできることを体験的に学ぶ機会を位置付けた。



(2)地域を知り、自らの健康促進と仲間との絆をつくるWWEの実施

- ・ 4月26日に全学年で校区を含めた3つのコース（岩村コース、三郷・武並コース、恵那峡コース）に分かれて、ウォーキングイベント（Weston Walking in Ena）を行った。新しい仲間と学級をスタートさせて間もない中で、約14km～16kmの道のりをお互いに声をかけ合いながら協力して歩いた。
- ・ 活動の実施に当たっては、PTAや学校運営協議会を中心に、保護者や地域住民の参加を呼びかけ、生徒と一緒に歩いたり、交通量の多い箇所立って安全確認をしたり、家の前で励ましの声をかけるなど、地域ぐるみのイベントとなるように働きかけた。



3 事業の成果等

| | |
|-----------|---|
| 子供たちに付いた力 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な場面や状況を想定しながら、自分の身を自分で守るだけでなく、地域の一人として状況を判断しながら実践する力が付いた。 ・ 自分から仲間との絆を深めながら、目標に向かって最後までやり遂げる力が付いた。 |
| 今後の方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験活動と自ら探究する活動を効果的に位置付けながら、地域とともに防災教育の充実を図る。 |



令和6年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

| | |
|-----------------|------------------------|
| 学 校 名 | 羽島市立桑原学園 (校長 児山 章浩) |
| 主な実践内容 (複数可) | 防災活動 |
| 教育課程上の位置付け | 総合的な学習の時間、 学級活動の時間 |

1 活動テーマ

学校・家庭・地域の三者で学び合い、気づき、考え、実践する防災・減災学習

2 主な活動内容

(1) 命を守る訓練

- ・避難経路の確認
- ・引き渡し訓練
- ・水害時を想定した垂直避難訓練
- ・VR を活用した水害体験
- ・防災・減災について学ぶ日（防災食、ハザードマップの確認、浸水実験）

(2) 登校の安全指導

- ・自転車の安全な乗り方、整備の仕方（後期課程）
- ・通学路の安全確認
- ・交通安全指導（3年）
- ・見守りボランティアの方への感謝の会

3 事業の成果等

| | |
|-----------|--|
| 子供たちに付いた力 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な防災活動を通して、自分の身は自分で守る意識が高まった。 ・地区別などの縦割りで活動することで、上の学年が下の学年を補助したりリードしたりできた。 ・様々な災害や、対処法について理解を深め、行動に表すことができた。 ・通学路の確認をし、道路や用水路などの危険箇所に気づき、安全な登下校について考えることができた。 |
| 今後の方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域と協働して継続して行うことで、戸惑うことなく避難所運営ができる力を高められるようにする。また、多様な立場の人々が避難することを想定した訓練や、子どもたちの意見を生かした活動等を盛り込むことで、主体的な学びの場としていきたい。 |